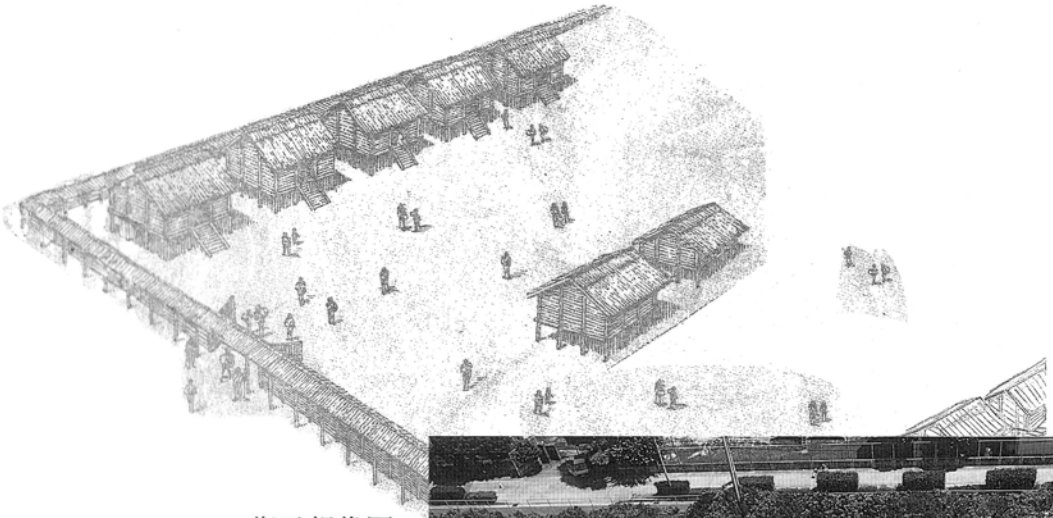
福岡市埋蔵文化財調査報告書第663集

比　恵 29

－比恵遺跡群第72次調査概要－



復元想像図

調査区全景（西から）

2001

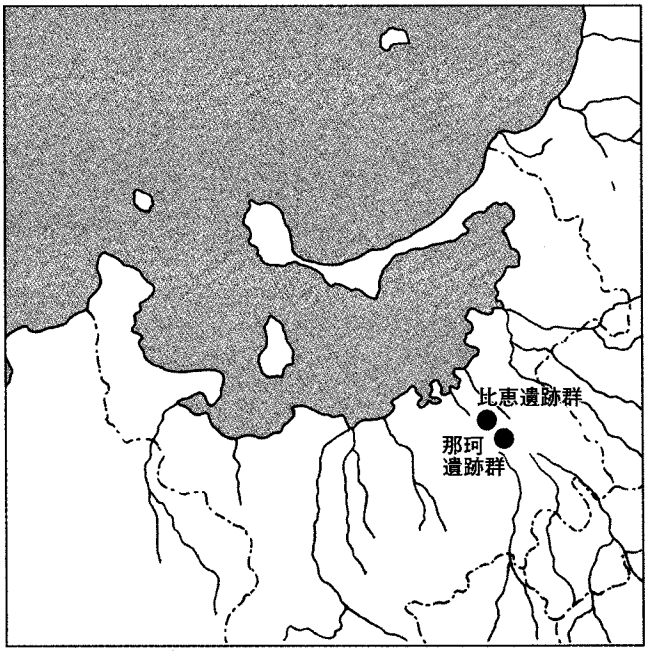
福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第663集

比　恵 29

HI　E

－比恵遺跡群第72次調査概要－



2001

福岡市教育委員会

序　文

玄界灘に面して広がる福岡市には豊かな歴史と自然が残されており、これを後世に伝えていくことは現代に生きる我々の重要な務めであります。

福岡市教育委員会では開発事業に伴い、やむをえず失われていく埋蔵文化財については事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めているところであります。

今回報告する比恵遺跡群第７２次調査では、「那津官家」の一部と推定される倉庫群を発見し記者発表を行ないました。またその後行なった現地説明会には６００人近くの見学者もみえられ多くの市民の皆様の関心を集めました。

また、今回の調査地点につきましては、地権者である佐藤株式会社（代表取締役社長　佐藤磨様）の全面的なご理解とご協力を得て、発掘調査を実施し、多大な成果を得るとともに、保存することとなりました。あわせて感謝いたします。現在、国指定史跡に向けての手続きを進めているところであり、今後は保存・整備に向けて検討を重ねていきたいと考えております。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にいたるまで関係各位のご理解を賜り、ご協力を頂きましたことに対し厚くお礼申し上げます。

平成１３年２月２８日

福岡市教育委員会

教育長　生　田　征　生

例　言

1．本書は博多区博多駅南５丁目71－14他において、福岡市教育委員会が実施した重要遺跡確認調査（比恵遺跡群第72次調査）の概要報告である。なお本報告については後日刊行の予定である。
また周辺の大型建物・柵状遺構の関連調査として比恵遺跡群第8次、那珂遺跡群第37・52・56・59次調査を長家伸、比恵遺跡群第７次・13次調査を吉留秀敏、比恵遺跡群第39次調査を菅波正人、有田遺跡群の概要を米倉秀紀が執筆している。

2．遺構の実測は長家・中村啓太郎・本田浩二郎・坂口剛毅・坂本真一・北川貴洋・小田裕樹が行った。

3．製図は長家、坂本、今村佳子が行った。

4．写真は各調査担当者が行った。

5．本書で用いる比恵遺跡群第72調査の遺構番号は全体で通し番号にし（一部欠番あり）、報告の際には番号の前に遺構の性格を示す略号を付して表記している。他の調査については各報告書記載の番号を用いる。

6．本書で用いる方位は磁北であり、座標北から６°西偏し、真北から６°　18′　西偏する。

7．本書に関わる図面・写真・遺物等の全資料は本報告刊行後に福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・保管される。

8．本書の執筆は上記例言１の各担当者が行い、編集は長家があたった。

遺跡調査番号	０００９		遺跡略号	ＨＩＥ－７２
所在地	博多区博多駅南５丁目７１－１４他		分布地図番号	３７－０１２７
調査面積	１８７４㎡	調査期間	平成１２年５月９日～平成１２年９月１９日	

本 文 目 次

Ⅰ はじめに …… 1
　1 調査に至る経過…… 1
　2 調査体制…… 1
Ⅱ 遺跡の立地とこれまでの調査…… 2
Ⅲ 比恵遺跡群第72次調査の概要 …… 8
Ⅳ 比恵遺跡群第8次調査の概要 ……27
Ⅴ 比恵遺跡群第7次・13次調査の概要（吉留秀敏）……29
Ⅵ 比恵遺跡群第39次調査の概要（菅波正人）……33
Ⅶ 那珂遺跡群第37・52・56・59次の概要 ……37
Ⅷ 有田遺跡群の概要（有田遺跡群におけるミヤケ状遺構）（米倉秀紀）……41
Ⅸ 小結 ……47

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図 1（1/50,000）…… 4
第2図 調査区位置図 2（1/1,000）…… 5
第3図 柵状遺構・総柱建物配置図（1/300）…… 9
第4図 第72次調査柵状遺構・総柱建物実測図（1/200）……11
第5図 ＳＡ111土層図（1/60）……12
第6図 ＳＢ020実測図（1/60）……14
第7図 ＳＢ021実測図（1/60）……15
第8図 ＳＢ131実測図（1/60）……16
第9図 ＳＢ132実測図（1/60）……17
第10図 ＳＢ133実測図（1/60）……18
第11図 春住小学校内試掘調査位置図・実測図（1/100）……26
第12図 比恵遺跡群第8次調査柵状遺構・総柱建物関連出土遺物実測図（1/3）……27
第13図 比恵遺跡群第7・13次調査柵状遺構・建物関連出土遺物実測図（1/2）……29
第14図 比恵遺跡群第7次・13次全体図（1/1,200、1/150）……30
第15図 比恵遺跡群第39次全体図および出土遺物実測図（1/100、1/4）……34
第16図 那珂遺跡群第56次調査建物出土遺物（1/3）……37
第17図 那珂遺跡群第37・52・56・59次遺構実測図（1/400）……38
第18図 有田遺跡群位置図及び関連遺構検出地点……43
第19図 有田遺跡群検出柵状遺構（1/500、1/1,000）……44

付図1 比恵遺跡群第8次・72次調査全体図（1/200）
付図2 比恵・那珂遺跡群調査地点配置図（1/5,000）
付図3 比恵遺跡群第8次・7次・13次・39次・72次遺構配置図（1/1,500）

表 目 次

表1 比恵遺跡群調査一覧…… 6
表2 那珂遺跡群調査一覧…… 7

写 真 目 次

表表紙 調査区全景（西から）、復元想像図
写真1 調査前状況
写真2 試掘状況（ＳＢ０２０確認）

写真３　表土剥ぎ状況
写真４　作業風景
写真５　空中写真撮影風景
写真６　現地説明会風景（6-1　北から　6-2　南から）
写真７　埋め戻し状況
写真８　調査終了後状況
写真９　調査区全景（上空から）…… 19
写真10　第７２次調査区全景（上空から）…… 20
写真11　調査区全景（北から）…… 21
写真12　柵状遺構・総柱建物（北から）…… 21
写真13　柵状遺構・総柱建物（西から）…… 22
写真14　柵状遺構（上空から）…… 22
写真15　柵状遺構（東から）…… 23
写真16　ＳＢ０２０、０２１（北から）…… 23
写真17　ＳＢ０２０完掘状況（北から）…… 23
写真18　ＳＢ０２１完掘状況（北から）…… 23
写真19　ＳＢ１３１（北から）…… 23
写真20　ＳＢ１３２（北から）…… 23
写真21　ＳＢ１３３（北から）…… 24
写真22　ＳＢ１３３（北から）…… 24
写真23　ＳＡ１１９（北から）…… 24
写真24　ＳＡ１２０（北から）…… 24
写真25　ＳＡ１２２土層…… 24
写真26　ＳＡ１２４（南から）…… 24
写真27　試掘状況１…… 25
写真28　試掘状況２…… 25
写真29　第８次調査全景１…… 28
写真30　第８次調査全景２…… 28
写真31　第７次調査建物…… 31
写真32　第13次調査全景1…… 31
写真33　第13次調査全景2…… 32
写真34　第13次調査柵状遺構 …… 32
写真35　第39次調査全景1…… 35
写真36　第39次調査全景2…… 35
写真37　第39次調査建物1…… 36
写真38　第39次調査建物2…… 36
写真39　第52次調査全景 …… 39
写真40　第59次調査全景 …… 39
写真41　第56次全景1…… 40
写真42　第56次全景2…… 40
写真43　有田遺跡群第１０５次全景…… 45
写真44　有田遺跡群第１８１次全景…… 45
写真45　有田遺跡群第１０７次全景…… 46
写真46　有田遺跡群第１０７次全景…… 46
裏表紙１．比恵７２次
　　２．比恵７次
　　３．比恵１３次
　　４．有田１０５次

写真1　調査前状況

写真2　試掘状況（SB020確認）

写真3　表土剥ぎ状況

写真4　作業風景

写真5　空中写真撮影風景

写真6-1　現地説明会風景（北から）

写真6-2　現地説明会風景（南から）

写真7 埋め戻し状況

写真8　調査終了後状況

Ⅰ はじめに

1．調査に至る経過

福岡市教育委員会ではこれまで市内の前方後円墳を中心にして、重要遺跡確認調査として内容の確認把握に努めてきているところである。近年はこれ以外の埋蔵文化財包蔵地についても同様に確認調査を行っている。

今回対象としたのは博多区博多駅南５丁目71－14他（敷地面積4349.86㎡　佐藤株式会社所有）の物件で、周知の埋蔵文化財包蔵地である比恵遺跡群内に位置している。当該地の調査前現況はテニスコートとして整備されていた。対象地は1983年（昭和58年）８月３日付けで株式会社サンハクトホテル代表取締役岩崎純一氏より社宅建設に伴い埋蔵文化財事前試掘調査願が提出され（事前審査番号58－１－172)、1984年（昭和59年）１月17日～1984年（昭和59年）４月18日にかけて対象地内のほぼ北半分である1410㎡を完掘し、中央部分の830㎡について部分的な調査を行なった（比恵遺跡群第８次調査　調査番号8330)。その結果弥生時代前期～中世の濃密な遺構・遺物が検出された。なかでも６世紀後半～７世紀前半代に位置付けられる３本の柱を一組とする柵状遺構とこれに伴うと考えられる５棟の総柱建物は該期では類例がなく、日本書紀に記されている“「修造那津之口」された「官家」”いわゆる「那津官家」との関連が指摘されている。

今回、土地所有者である佐藤株式会社（代表取締役　佐藤磨氏）のご理解を得て、福岡市教育委員会では重要遺跡確認調査として第８次調査で確認された柵状遺構と総柱建物の残存状況を確認するとともに、未調査部分について関連遺構の存否を確認し、遺構の確認・掘り下げを行なうこととした。

2．調査体制

調査目的　重要遺跡確認調査
調査主体　教育委員会埋蔵文化財課
調査総括　埋蔵文化財課長　山崎純男
　　調査第２係長 力武卓治
調査庶務　文化財整備課　御手洗清
調査担当　調査第２係 長家伸・中村啓太郎・本田浩二郎

夏期にかかる炎天下のなか調査作業･整理作業に従事された方々には謝意を表したい。
また調査・整理にあたっては諸先生方や同僚諸氏に多くのご指導・助言をいただいた。芳名は記さないがここで謝意を申し上げたい。
確認調査を行なうにあたっては土地所有者である佐藤株式会社（代表取締役佐藤磨氏）にはご理解をいただくとともに多大なご協力を賜った。厚く御礼を申し上げます。

Ⅱ　遺跡の立地とこれまでの調査

比恵遺跡群は福岡平野の中央部分を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵上に立地する遺跡群である。丘陵の基盤層は花崗岩礫層でその上面に阿蘇山噴火火砕流である八女粘土・鳥栖ローム層が堆積している。比恵遺跡群の南側に立地する那珂遺跡群も丘陵鞍部をはさむが、現在までの発掘調査成果から一連の遺跡群を構成し、その範囲は南北2.4km・東西１kmに及ぶと考えられる。

比恵・那珂遺跡群は都市化の影響を受け区画整理等の地形改変を大きく受けており、比恵遺跡群内では特に著しい。現況での標高は比恵遺跡群北端で4.5m、那珂遺跡群南端で９mである。周辺部分を含めた旧地形の復元はさまざまな角度から行なわれているが、丘陵は開析作用により本来樹状の複雑なアップダウンを有し、比恵遺跡群西側及び北側周辺部は河川の影響などにより丘陵本体から切り離された島状を呈していたものと考えられている。今回報告する第72次調査地点はまさにその西側に位置する島状の部分にあたり、丘陵本体との間には幅約130mの谷が入り込んでいる。現在までの試掘の結果などから谷部分では標高４m（周辺丘陵との比高差約２mでこの部分で現在は湧水が始まる）まではほぼ粗砂が堆積しており、現在のところ出土遺物等から少なくとも古代以前まではこの谷は埋没しておらず、丘陵内を南北に貫通する河川流路であったと考えられる。

また丘陵の東西縁辺は那珂川・御笠川の作用により崖面となり、北東側は御笠川との間に沖積地を形成している。さらに丘陵の前面北側には博多遺跡群の立地する砂丘との間に後背湿地が形成され、砂丘前面は博多湾となる。

歴史的には福岡平野は「奴国」の中心地とされ、また「那津」・「儺県」・「娜大津」などと呼称され、律令制下では中心部が那珂郡、東側を席田郡とされており、弥生時代以降古代・中世にいたる濃密な遺構群が検出されている。ここでは比恵・那珂遺跡群内の遺構の変遷を簡単に辿っていきたい。

比恵・那珂遺跡群内で現在までに確認されているもっとも古い段階の遺構は突帯文期に遡り、弥生時代の前期にかけて丘陵縁辺の低位な部分を中心に集落を形成している。またこれに伴い高位部分に貯蔵穴が確認されており、数グループの集団が構成されていたようである。また那珂遺跡群の北端部分の高位部には、二重環濠が形成されている（第37次調査）。環濠はほぼ正円に復元され外濠外縁径約150m、内濠内縁径120mを測る。また那珂遺跡群の中央部の高位面においても第67次の調査で前期の環濠が検出されている。この後前期～中期の間には、周辺の沖積作用の増大に伴い集落は台地内部を切り開く形で展開をはじめる。また埋葬遺構は弥生時代中期初頭～前半には比恵遺跡群の北側で、中頃～後期には那珂遺跡群の北側に墳丘墓が形成される。中でも比恵遺跡群では細形銅剣の副葬が見られる。集落が爆発的に増加するのは弥生時代中期後半以降で後期にかけ丘陵の全面的な開発が行われている。丘陵内部を縦横に走る大溝の掘削・工房の成立・大型の掘立柱建物など、数次の画期を経ながら丘陵上の開発が進む。また丘陵東側の沖積地では中期中頃～後期前半の大規模な水田が確認されている（東比恵三丁目遺跡第１次調査）。更に弥生時代終末～古墳時代前期にかけて丘陵を縦走する並列溝の存在が指摘されており、道路としての可能性も考えられている。

丘陵の大規模な開発はこの後も続き、古墳時代初頭には首長墓としての初期の前方後円墳である那珂八幡古墳が那珂遺跡群の中央部分に築造される。第１主体は未掘であるが、第２主体から三角縁神獣鏡などの遺物が出土している。またこれに関連して企画的な配置をもった方形周溝墓が那珂八幡古墳の南側に並ぶ（那珂９次・41次・62次・63次）。首長墓はこの後間をおき剣塚北古墳（５世紀後半～６世紀初頭）→東光寺剣塚古墳（６世紀中頃築造）に引き継がれていく。また比恵遺跡群内でも５世紀代の比恵１・２号墳が確認されている。

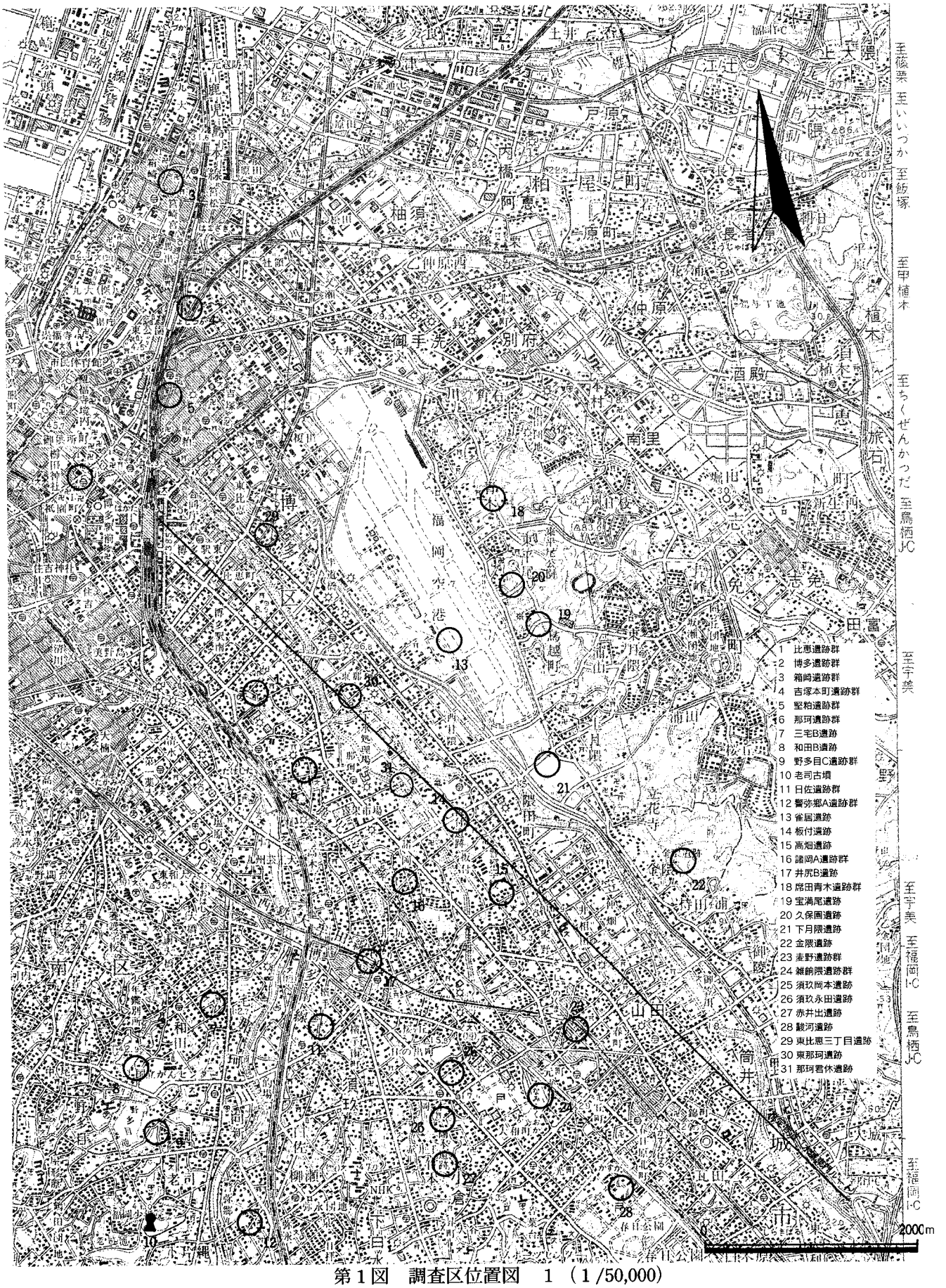
古墳時代前期後半以降は集落の検出例は少なくなり一時的な衰退傾向が見受けられるが、剣塚北古墳の築造から推定されるように5世紀後半代までには再び大規模な集落が展開し始める様である。5世紀代の生活遺構について検出例は少ないが竈を有する竪穴住居が検出されており注目される。この時期では丘陵の東側、那珂川の東岸に位置する那珂君休遺跡において4～5世紀代の水田遺構が検出されている。

6世紀代になると掘立柱建物と竪穴住居から構成される集落が展開する。現在までの調査状況から集落は　1）本調査地点が立地する西側の島状丘陵の一群　2）比恵遺跡群の南半部分中央高所に南北400m、東西200mの範囲で南北にベルト状に広がる一群　3）現アサヒビール博多工場を中心としてその東側に広がる一群　4）那珂八幡古墳の南側の一群　5）4群の東側で丘陵東側縁辺部に点在する一群以上の5群にまとめることが可能である。特徴として集落は丘陵全面に広がるのではなく低位面を避け台地の高位面に広がり、特に比恵遺跡群北半分および那珂遺跡群中央西側など該期の集落が展開しないエリアがある。また遺構の切りあいが激しく比較的長期間同一エリアで集落を営んだと考えられる。6世紀後半～7世紀前半にかけて大型掘立柱建物の造営が始まる。この中に今回概要を報告するミヤケ関連と考えられる建物群も含まれる。これらの建物は上記の1）のエリアを除いて基本的に集落が営まれた区域をはずした丘陵の高位面上に造られている。また1）の区域についても集落と共存するのではなくこれを廃棄させて造営を開始している。これらの建物群間の有機的関連については不明確であるが、それぞれが既存集落から隔絶した存在であり官衙的な様相を帯びた建物群であるといえよう。建物は1）に展開するもの（第8・72次調査）を除いて主軸方向が真北を指向し、那珂遺跡群では直接建物に伴うものではないがほぼ同時期に神ノ前窯系などの最古期の瓦の出土も見られる。

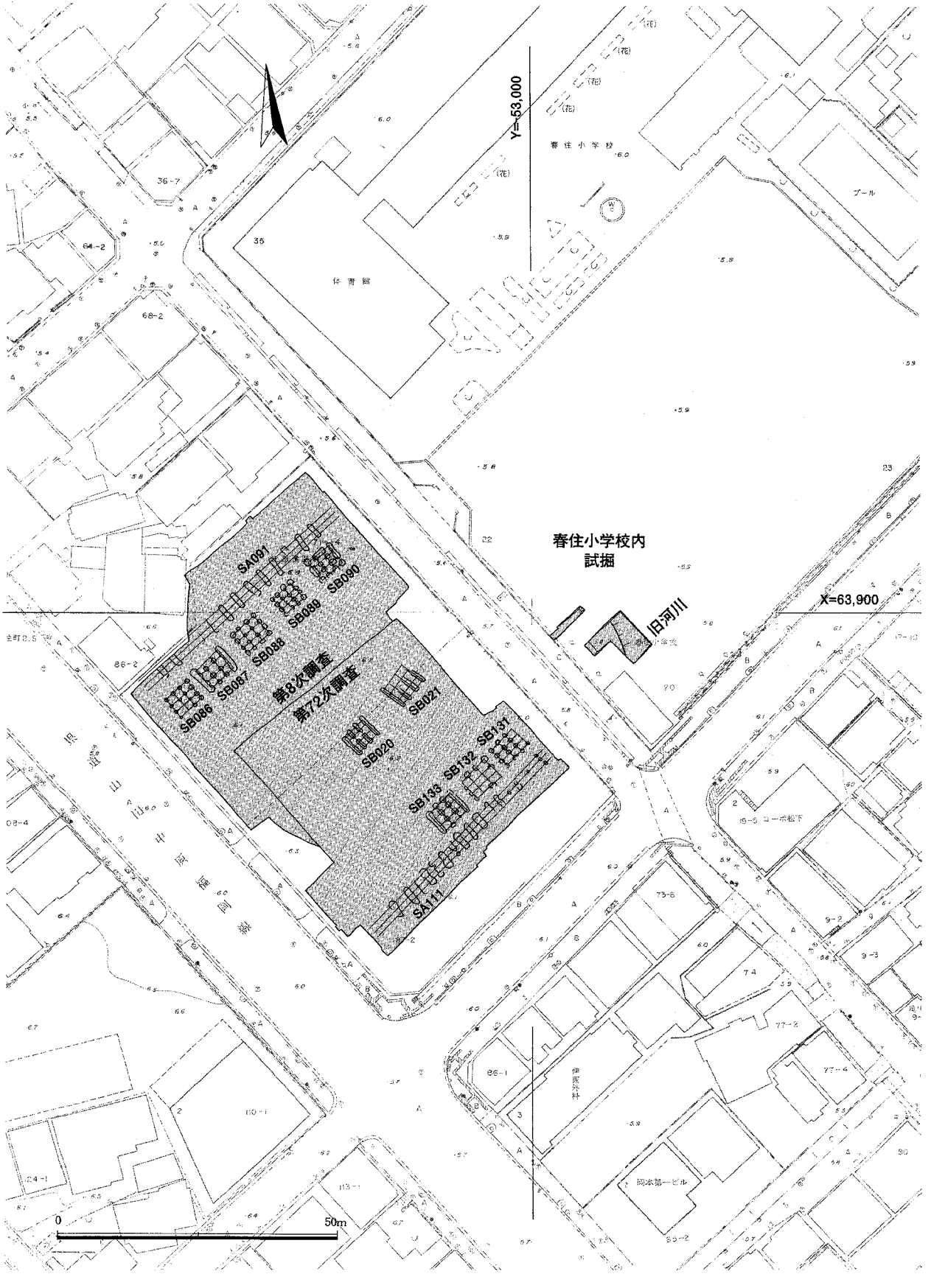
7世紀後半以降になると那珂遺跡群に展開する遺構群の比重が大きくなる。またこの時期までに上述の大型建物は廃絶している。この時期那珂遺跡群を南北に貫く直線的な溝が掘削されここから瓦が比較的まとまって出土している。この溝は方位を真北にとり、現在までの調査で那珂遺跡群の南端付近から延長で650m程を確認している。8世紀中頃に埋没したと考えられ、この時期の丘陵内の区画を規制するものと考えられる。8世紀から9世紀の前半にかけて那珂遺跡群では建物の確認は少ないが井戸が点在し、瓦・硯・墨書土器等が出土している。官衙・寺院などの存在が推定され旧那珂郡の中心地として捉えることができよう。

8世紀代には比恵遺跡群の東側を、官道であるいわゆる水城東門ルートが開設されている。ルートは大宰府水城東門跡からほぼ直線的にN－43°－Wの方位で延び、比恵遺跡群の前面砂丘上に立地する博多遺跡に到達すると考えられている。到達点上には真北方位で区画された8世紀代の官衙状遺構が存在し銙帯、硯、皇朝十二銭、老司式・鴻臚館式瓦、墨書土器（「長官」）などの遺物が出土している。比恵・那珂遺跡群内での官道の調査例はないが、近辺では推定ラインが現筑紫通り付近にほぼ平行するルートとして想定され、これに従うと比恵遺跡群の東側丘陵上を貫くこととなる（第1図参照）。現在までの調査例から官道と前段階に掘削された直線溝は方向が完全に異なり、官道開設後はこの方位に規制され、建物・道路等の台地上の施設が展開していく可能性も考えられる。

以上簡単に遺構の変遷を述べたが遺跡の面積に比べいまだ調査面積は広いとはいいがたい。今後とも検討していく必要があろう。



第1図　調査区位置図　1（1/50,000）



第２図　調査区位置図　２（１/1,000）

調査番号	遺跡名	次数	調査原因	区	調査地所在地	調査対象面積	調査面積	調査開始	調査修了	報告書(集)
3801	比恵遺跡群	1	区画整理	博多	駅南4丁目			38,39年		1001
5201	比恵遺跡群	2	共住整理	博多	駅南4丁目		800	52年		94
6604	比恵遺跡群	3	道路建設	博多	駅南5丁目			66,67,68		1007
7908	比恵遺跡群	4	共住建設	博多	博多駅南1丁目		1,300	791113	800420	1032
8141	比恵遺跡群	5	工場建設	博多	博多駅南4		1,600	810415	810731	
8228	比恵遺跡群	6	共住建設	博多	博多駅南4	3,300	2,644	820505	820905	94･103
8329	比恵遺跡群	7	共住建設	博多	博多駅南4	2,329	2,100	830720	831130	117
8330	比恵遺跡群	8	ビル建設	博多	博多駅南5	4,354	2,240	840117	840418	116
8503	比恵遺跡群	9	ビル建設	博多	博多駅南6	3,322	1,863	850719	851022	145
8504	比恵遺跡群	10	ビル建設	博多	博多駅南6	793	555	850916	851001	145
8540	比恵遺跡群	11	ビル建設	博多	博多駅南6	732	580	860220	860331	146
8616	比恵遺跡群	12	ビル建設	博多	博多駅南4丁目11-35	499	279	860712	860731	174
8617	比恵遺跡群	13	専住建設	博多	博多駅南4丁目159-3	661	496	860714	860917	596
8635	比恵遺跡群	14	工場建設	博多	博多駅南6丁目9-7	410	284	860807	860828	174
8636	比恵遺跡群	15	共住建設	博多	博多駅南6丁目9-6	558	278	860805	860927	596
8637	比恵遺跡群	16	ビル建設	博多	博多駅南4丁目8-15	306	202	860916	861011	174
8717	比恵遺跡群	17	ビル建設	博多	博多駅南4丁目117-2外	512	436	870629	870728	227
8820	比恵遺跡群	18	変電所	博多	博多駅南6丁目10-36	410	383	880618	880831	227
8828	比恵遺跡群	19	社屋建設	博多	博多駅南4丁目88	784	670	880803	881008	255
8859	比恵遺跡群	20	社屋建設	博多	博多駅南4丁目19-2	110	252	890206	890228	227
8863	比恵遺跡群	21	ビル建設	博多	博多駅南6丁目9-6	558	168	890313	890329	596
8902	比恵遺跡群	22	倉庫	博多	博多駅南4丁目19-2	414	215	890411	890422	年報4
8909	比恵遺跡群	23	事業所	博多	博多駅南5丁目40-1	318	88	890418	890423	227
8917	比恵遺跡群	24	共同住宅	博多	博多駅南3丁目317	468	340	890523	890619	255
8924	比恵遺跡群	25	共同住宅	博多	博多駅南3丁目1-1	625	403	890619	890904	255
8939	比恵遺跡群	26	駐車場	博多	博多駅南3丁目58	400	452	890807	890923	255
8971	比恵遺跡群	27	社屋	博多	博多駅南4丁目10-18	282	165	900208	900228	255
8981	比恵遺跡群	28	共同住宅	博多	博多駅南3丁目426	540	405	900314	900407	255
9004	比恵遺跡群	29	共同住宅	博多	博多駅南3丁目221	295	120	900410	900428	289
9012	比恵遺跡群	30	共同住宅	博多	博多駅南4丁目201	879	550	900519	900620	289
9016	比恵遺跡群	31	寮舎建設	博多	博多駅南4丁目201	1,094	500	900621	900713	289
9037	比恵遺跡群	32	共同住宅	博多	博多駅南3丁目46-1他	300	159	900925	901113	289
9039	比恵遺跡群	33	社屋建設	博多	博多駅南4丁目150-3	1,580	1,130	901004	900228	年報5
9043	比恵遺跡群	34	事務所建設	博多	博多駅南4丁目462-1	1,338	80	901105	901116	289
9061	比恵遺跡群	35	社屋建設	博多	博多駅南4丁目109-1	659	370	910218	910323	289
9064	比恵遺跡群	36	事務所建設	博多	博多駅南6丁目30-2	3,651	265	910308	910331	289
9104	比恵遺跡群	37	ビル建設	博多	博多駅南4丁目221	224	170	910422	910523	325
9109	比恵遺跡群	38	店舗建設	博多	博多駅南3丁目2-22		70	910515	910517	年報6
9134	比恵遺跡群	39	事務所建設	博多	博多駅南4丁目192-5	220	210	911028	911213	325
9207	比恵遺跡群	40	倉庫改築	博多	博多駅南4丁目72他	4,390	540	920413	920624	368
9211	比恵遺跡群	41	ビル建設	博多	博多駅南6丁目34-2	1,037	633	920516	921130	401
9221	比恵遺跡群	42	工場建替	博多	博多駅南4丁目6-23	4,025	756	920706	921113	368
9229	比恵遺跡群	43	立体駐車場	博多	博多駅南4154-3他	1,579	354	920820	921130	453
9231	比恵遺跡群	44	油貯蓄タンク	博多	博多駅南4	60	60	920827	920905	368
9237	比恵遺跡群	45	倉庫建設	博多	博多駅南6丁目24-1	344	344	920928	921031	402
9240	比恵遺跡群	46	倉庫建設	博多	博多駅南6丁目13-2	932	388	921022	921212	403
9245	比恵遺跡群	47	店舗付住宅	博多	博多駅南5丁目11	182	182	921104	921130	369
9255	比恵遺跡群	48	工場改築	博多	博多駅4丁目9-8	4,390	850	930106	930331	368
9318	比恵遺跡群	49	共同住宅	博多	博多駅前5丁目53-1	793	462	930623	930805	401
9329	比恵遺跡群	50	商業ビル	博多	博多駅南4丁目49	3,700	4,662	930809	840430	451
9334	比恵遺跡群	51	バス発着所	博多	博多駅南4丁目86	1,401	1,401	930906	940309	452
9361	比恵遺跡群	52	宿舎建設	博多	博多駅南5丁目18	2,809	862	940216	940315	404
9415	比恵遺跡群	53	商業ビル建設	博多	駅前6丁目7-27	1,609	1,095	940524	940922	451
9443	比恵遺跡群	54	商業ビル建設	博多	博多駅南4丁目15-3	281	187	941011	941122	520
9461	比恵遺跡群	55	共同住宅	博多	博多駅南6丁目16-2	738	390	950213	950322	442
9525	比恵遺跡群	56	共同住宅建設	博多	駅南4丁目15-1	800	524	950907	951027	520
9541	比恵遺跡群	57	遊興施設	博多	博多駅前6丁目11-4	2,660	2,050	951120	960223	530
9601	比恵遺跡群	58	市営住宅建替	博多	博多駅南4丁目108-1	1,200	736	960401	960625	561
9627	比恵遺跡群	59	駐車場	博多	博多駅前4丁目120-1	200	131	960731	960826	562
9668	比恵遺跡群	60	共同住宅	博多	博多駅南5丁目89、89-3	596	402	970127	970331	562
9673	比恵遺跡群	61	事務所	博多	博多駅南6丁目62-1、67	1,011	273	970303	970324	562
9720	比恵遺跡群	62	社屋建設	博多	博多駅南6丁目25-1	555	370	970609	970704	595
9739	比恵遺跡群	63	共同住宅	博多	博多駅南6丁目	230	174	970906	971003	595
9769	比恵遺跡群	64	店舗建設	博多	博多駅南5丁目12-32	161	143	980204	980210	
9772	比恵遺跡群	65	倉庫建設	博多	博多駅南5丁目10-7			980216	980302	595
9834	比恵遺跡群	66	共同住宅	博多	博多駅南5-70-2		212	980925	981007	
9907	比恵遺跡群	67	共同住宅	博多	博多駅南6丁目81	337	200	990412	990614	
9912	比恵遺跡群	68	事務所ビル	博多	博多駅南3-3-33	284	284	990517	990618	
9925	比恵遺跡群	69	共同住宅	博多	博多駅南5丁目109	238	150	990629	990715	
9942	比恵遺跡群	70	ビル建設	博多	博多駅南4丁目99	313	314	991001	991118	
9955	比恵遺跡群	71	共同住宅	博多	山王1丁目150他	881	593	991206	000301	
0009	比恵遺跡群	72	重要確認	博多	博多駅南5丁目71-14他		1,874	509	000919	663
9815	比恵甕棺遺跡	1	事務所建築	博多	山王2丁目2-12	247		35936		625

表１．比恵遺跡群調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	調査原因	区	調査地所在地	調査対象面積	調査面積	調査開始	調査修了	報告書
7414	那珂遺跡群	2	倉庫建設	博多	那珂1丁目237-1		231	741009	741019	福岡平野の歴史
7705	那珂遺跡群	3	専住建設	博多	那珂1丁目680番		2	771000		
8036	那珂遺跡群	4	道路建設	博多	那珂1丁目277		300	810310	810317	82
8328	那珂遺跡群	5	ビル建設	博多	那珂1丁目377-2		100	830620	830703	
8530	那珂遺跡群	7	公民館建設	博多	那珂3丁目128	495	450	851106	860127	162
8609	那珂遺跡群	8	共住建設	博多	那珂1丁目601外	1,763	1,350	860421	860703	153
8703	那珂遺跡群	9	共住建設	博多	竹下5丁目463		1,030	870425	870704	598
8727	那珂遺跡群	10	倉庫建設	博多	竹下3丁目1-1		862	870817	871031	291
8732	那珂遺跡群	11	倉庫建設	博多	竹下3丁目1-1		5	870926	871001	291
8733	那珂遺跡群	12	倉庫建設	博多	竹下3丁目1-1		20	870926	871003	291
8736	那珂遺跡群	13	道路建設	博多	那珂2丁目地内		1,536	871104	880330	222
8802	那珂遺跡群	14	共住建設	博多	竹下3丁目1-1		1,180	880902	890131	291
8832	那珂遺跡群	15	重要建設	博多	竹下3丁目1-1		250	880907	890325	267
8848	那珂遺跡群	16	道路建設	博多	竹下5丁目地内		1,600	890125	890322	291
8849	那珂遺跡群	17	工場建設	博多	竹下3丁目1-1		240	881024	881211	291
8850	那珂遺跡群	18	工場建設	博多	竹下3丁目1-1	473	415	881027	881210	292
8855	那珂遺跡群	19	道路建設	博多	東光寺1丁目23-5	1,600	800	890125	890314	323
8906	那珂遺跡群	20	共同住宅	博多	那珂2丁目257他	1,406	750	890417	890624	324
8923	那珂遺跡群	21	工場建設	博多	竹下3丁目1-1	2,167	1,988	890608	890916	291
8935	那珂遺跡群	22	共同住宅	博多	竹下5丁目420	776	516	890707	890822	253
8936	那珂遺跡群	23	保育所	博多	竹下5丁目282,283	2,000	1,428	890710	900104	254.290
8982	那珂遺跡群	24	共同住宅	博多	那珂1丁目35	385	325	890918	890920	年報4
8983	那珂遺跡群	25	共同住宅	博多	東光寺1丁目218	622	100	890912	890921	年報4
9002	那珂遺跡群	26	共同住宅	博多	那珂2丁目249	1,028	436	900410	900616	409
9003	那珂遺跡群	27	共同住宅	博多	那珂2丁目7-12	1,157	756	900411	900616	年報5
9008	那珂遺跡群	28	共同住宅	博多	東光寺1丁目312他	194	150	900510	900609	292
9026	那珂遺跡群	29	倉庫建設	博多	東光寺162他	480	313	900802	900825	361
9046	那珂遺跡群	30	倉庫建設	博多	那珂1丁目462-1	111	80	901201	901215	292
9053	那珂遺跡群	31	病院建設	博多	大字那珂字沼口802-15	111	123	901218	900131	292
9115	那珂遺跡群	32	道路建設	博多	那珂1丁目792外	1,500	1,300	910705	910930	365
9122	那珂遺跡群	33	共同住宅	博多	那珂2丁目249-1		275	910902	911014	364
9144	那珂遺跡群	34	道路建設	博多	那珂1丁目824他	1,230	1,100	920120	920331	365
9145	那珂遺跡群	35	車庫増設	博多	那珂2丁目213-1		20	920203	920207	365
9217	那珂遺跡群	36	事務所建設	博多	東光寺1丁目332他	154	154	920608	920610	年報7
9224	那珂遺跡群	37	倉庫建設	博多	那珂6丁目314番地他	1,185	1,215	920720	920905	366
9225	那珂遺跡群	38	共同住宅	博多	那珂6丁目80-1	1,104	566	920720	920926	399
9228	那珂遺跡群	39	共同住宅	博多	那珂1丁目362	493	493	920810	921003	年報7
9256	那珂遺跡群	40	倉庫兼事務所	博多	那珂2丁目5番	545	496	930215	930409	367
9264	那珂遺跡群	41	共同住宅	博多	竹下5丁目509	893	550	930315	930520	399
9308	那珂遺跡群	42	削平工事	博多	那珂1丁目476	396	63	930522	930531	399
9315	那珂遺跡群	43	倉庫建設	博多	竹下5丁目112-2	132	132	930607	930608	年報8
9328	那珂遺跡群	44	共同住宅	博多	那珂2丁目122･123	821	821	930809	931031	398
9333	那珂遺跡群	45	事務所兼自宅建設	博多	那珂1丁目829	200	162	930823	930826	年報8
9347	那珂遺跡群	46	共同住宅	博多	竹下5丁目432-2	635	250	931101	931206	399
9414	那珂遺跡群	47	共同住宅建設	博多	那珂2丁目100-1	712	450	940518	940628	454
9437	那珂遺跡群	48	共同住宅建設	博多	竹下5丁目412他	5,541	2,500	940901	941102	455
9438	那珂遺跡群	49	共同住宅建設	博多	東光寺1丁目148他	997	723	940905	941102	455
9441	那珂遺跡群	50	工場整備	博多	竹下3丁目1-1	6,380	3,000	940929	941220	518
9512	那珂遺跡群	51	水道整備	博多	那珂6丁目20地内	38	42	950522	950527	525
9513	那珂遺跡群	52	道路拡張	博多	那珂6丁目地内	384	156	950531	950627	525
9528	那珂遺跡群	53	道路整備	博多	那珂6丁目地内	630	220	950918	951020	525
9530	那珂遺跡群	54	店舗兼住宅	博多	竹下5丁目8-2	272	90	951009	951012	525
9553	那珂遺跡群	55	共同住宅建設	博多	竹下5丁目379他	520	530	960304	960625	500
9556	那珂遺跡群	56	工場増設	博多	五十川1丁目13-1	240	297	960310	960318	500
9606	那珂遺跡群	57	個人住宅	博多	竹下5丁目354	120	120	960624	960702	598
9619	那珂遺跡群	58	共同住宅	博多	那珂1丁目486,487	750	480	960704	960826	563
9645	那珂遺跡群	59	道路整備	博多	那珂6丁目地内	180	177	961014	961115	564
9702	那珂遺跡群	60	専用住宅	博多	東光寺町223	543	158	940402	970602	年報13
9709	那珂遺跡群	61	共同住宅	博多	那珂2丁目388-1	20	20	970414		年報13
9711	那珂遺跡群	62	宅地造成	博多	那珂1丁目838･,839-1	1,076	1,005	970506	970718	597
9724	那珂遺跡群	63	共同住宅	博多	那珂1丁目792-1	225	214	970630	970731	597
9741	那珂遺跡群	64	工場建設	博多	竹下3丁目1-1	8,900	5,870	970922	980831	538
9770	那珂遺跡群	65	事務所	博多	竹下5丁目59-3	147	147	980212	980218	597
9818	那珂遺跡群	66	専用住宅	博多	東光寺町			980608	980623	年報13
9858	那珂遺跡群	67	共同住宅	博多	那珂1丁目148他	1,600	1,420	990118	990630	
9861	那珂遺跡群	68	共同住宅	博多	竹下5丁目94	583	599	990212	990331	
9905	那珂遺跡群	69	共同住宅	博多	那珂1丁目590-1他	1,400	1,088	990408	990621	
9906	那珂遺跡群	70	共同住宅	博多	竹下5丁目500	306	339	990413	990531	
9932	那珂遺跡群	71	専用住宅	博多	那珂1丁目655	193	193	990823	991001	
9935	那珂遺跡群	72	専用住宅	博多	那珂6丁目153,154	274	164	990903	991006	
9948	那珂遺跡群	73	共同住宅	博多	那珂3丁目19,20,21	500	382	991108	001112	
9961	那珂遺跡群	74	共同住宅	博多	那珂1丁目423他	598	388	991221	000208	
9971	那珂遺跡群	75	共同住宅	博多	竹下5丁目433	250	250	000301	000414	
0016	那珂遺跡群	76	専用住宅	博多	那珂2丁目6-7	20		000601	000606	
0045	那珂遺跡群	77	工場改築	博多	竹下3-1-1					
0048	那珂遺跡群	78	工場改築	博多	竹下3-1-1					
7109	那珂八幡古墳	1	学術調査(那珂1次)	博多	那珂1丁目44		24	710315	710405	1020
8505	那珂八幡古墳	2	重要確認(那珂6次)	博多	那珂1丁目44		534	850312	850709	141

表２．那珂遺跡群調査一覧

Ⅲ　比恵遺跡群第72次調査の概要

１．調査の経過

調査はすでに行なわれた第８次調査で検出された遺構群の残存状況を確認する作業から行なった。2000年（平成12年）５月９日から対象地中央部分～南側にトレンチを設定し、重機による表土除去を行なった。その結果テニスコート舗装面及び下位の造成土を20～50cmほど除去すると遺構面である鳥栖ローム層を確認した。この面で除去作業を行いまず第８次調査ＳＢ１１５を確認し、ついで除去範囲を東側に広げていった結果ＳＢ１１６を確認した。遺構の残存状態は良好で、第８次調査終了以降対象地内での掘削作業はほとんど行なわれていないことが判明した。この結果を受けて引き続き面的な表土除去を行なうこととした。表土除去は第８次調査で部分的な調査しか行なうことのできなかった、対象地中央部分から行い東側1/3ほどを順次南側へ広げていくこととした。この結果調査区の南端で第８次調査検出の柵状遺構にほぼ平行する柵状遺構とこれに平行する総柱建物３棟を検出した。そのため調査地点内の全面的な把握を目的として残りの部分的な調査区及び未調査区の表土除去を開始した（第72次調査）。この結果調査区の南端で直線的な柵状遺構とこれに伴う総柱建物を３棟確認した。また第８次調査西北端部分の遺構残存状態も同時に確認した結果、柵状遺構（ＳＡ０９１）及び総柱建物（ＳＢ０８６・０８７）を良好な状態で確認している。

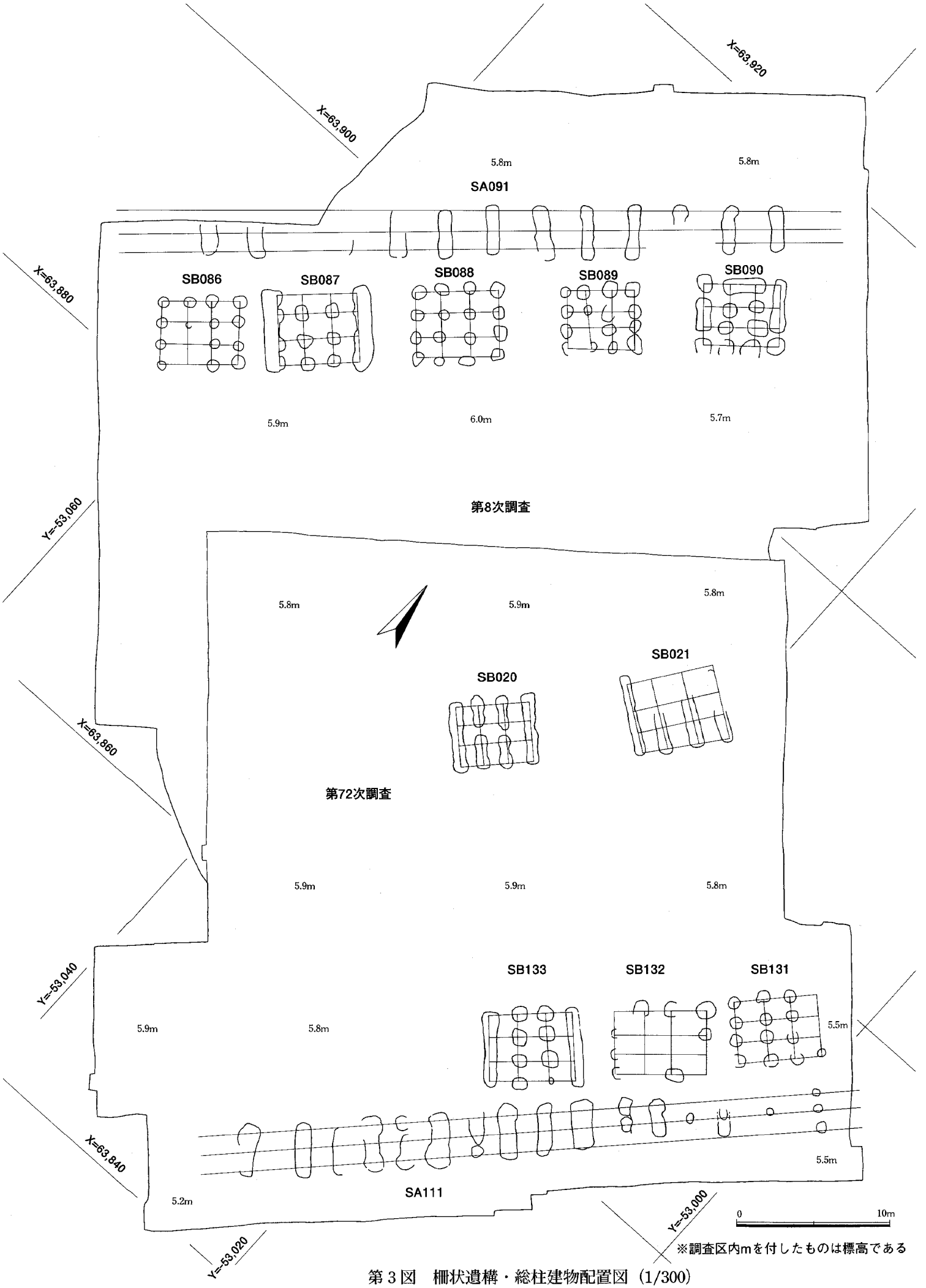
確認調査と平行して遺構の時期決定を目的とし各遺構の掘り下げを行なった。この結果弥生時代～中世の遺構群が確認された。さらに柵状遺構は第８次調査ＳＡ０９１同様３本一組となりこれによって南北55ｍ、東西50ｍ以上の空間を囲みその内部に企画性を有する建物が少なくとも10棟存在することが明らかとなった。遺構の重要性を鑑み教育委員会では地権者の同意を得て「那津官家」関連遺構として８月24日に福岡市長による記者発表を行い、９月２日には現地説明会を行なった。説明会には600人の見学者が訪れ本調査に対する人々の関心の高さを見せつけた。

説明会終了後遺構の保護を目的として真砂土で調査区全面を被覆し、その上から掘削土を埋め戻し調査を終了した。

２．調査概要

対象地はⅡ章でも述べたように、丘陵本体から切り離された島状の丘陵の東側縁辺にあたる。この丘陵は南北約300ｍ、東西200ｍで河川流路により周囲と画されている。周辺の試掘調査などの結果からこの河川部分は少なくとも中世以降に耕地化されるまでは流路としての機能を失っていなかったと考えられる。丘陵本体との間は130ｍほどであるが、南側では東側に延びる突起状の張り出しがありこの部分では幅約50ｍほどに復元できる（付図２参照）。

１項で述べた確認作業の結果、調査は敷地内4349.86㎡のうち第８次調査で完掘した1410㎡を除く2940㎡を対象として行なった。周囲に幅約８ｍ程度の引きを取ったため実際の調査面積は1874㎡である。調査地点は現況でテニスコートとして整備されており、現況の標高は6.1ｍ程度である。遺構面はテニスコート舗装面とその下位の盛り土を20～50cmさげた鳥栖ローム上面であり標高5.7～5.9ｍで遺構面はほぼ平坦であるが調査区東隅部分がわずかに傾斜しこの部分に中世前半の遺物を含む包含層が堆積している。第８次調査終了後大きな掘り下げは行なわれておらず遺構の残存状態は比較的良好であった。しかし戦前には大規模な区画整理がおこなわれ、また戦前・戦後には敷地内全体に大規模な工場があり、これらによる削平・撹乱が著しいうえ調査範囲の南半には工場廃油による遺構面の汚染が著しく遺構検出・土層確認を困難にしている。更に調査区中央部南よりには深さ３ｍ近くになる撹乱が大きく広がり、遺構が消失してしまっている。



第３図　柵状遺構・総柱建物配置図（1/300）

本概要報告では総柱建物と柵状遺構について概要の報告を行なう。また調査終了後間がないため遺構・遺物については整理途中で細かな検討を行なっていない。ここで時期別の検出遺構を上げておくが、詳細は本報告時に行ないたい。

検出遺構は以下のとおりである（なお本報告において異同があることを諒解されたい）。

弥生時代

前期～中期前半：貯蔵穴　20基（内４基は第８次調査で完掘し、２基は一部掘り下げ済み）

中期中頃～終末期：竪穴住居跡　９基（内１基が円形住居、後は方形～長方形住居）

井戸56基　甕棺墓13基（内９基は第８次調査で掘り下げ済み）

古墳時代

初頭～前期：井戸４基

後期：竪穴住居跡１棟　　井戸１基

柵状遺構　１基、総柱建物５棟（内２棟は第８次調査で確認済み）

古代～中世

溝２条　井戸４基　土坑墓１基

その他多くの土坑・ピットが検出され出土遺物は総数でコンテナ214箱に及ぶ。

柵状遺構（ＳＡ）

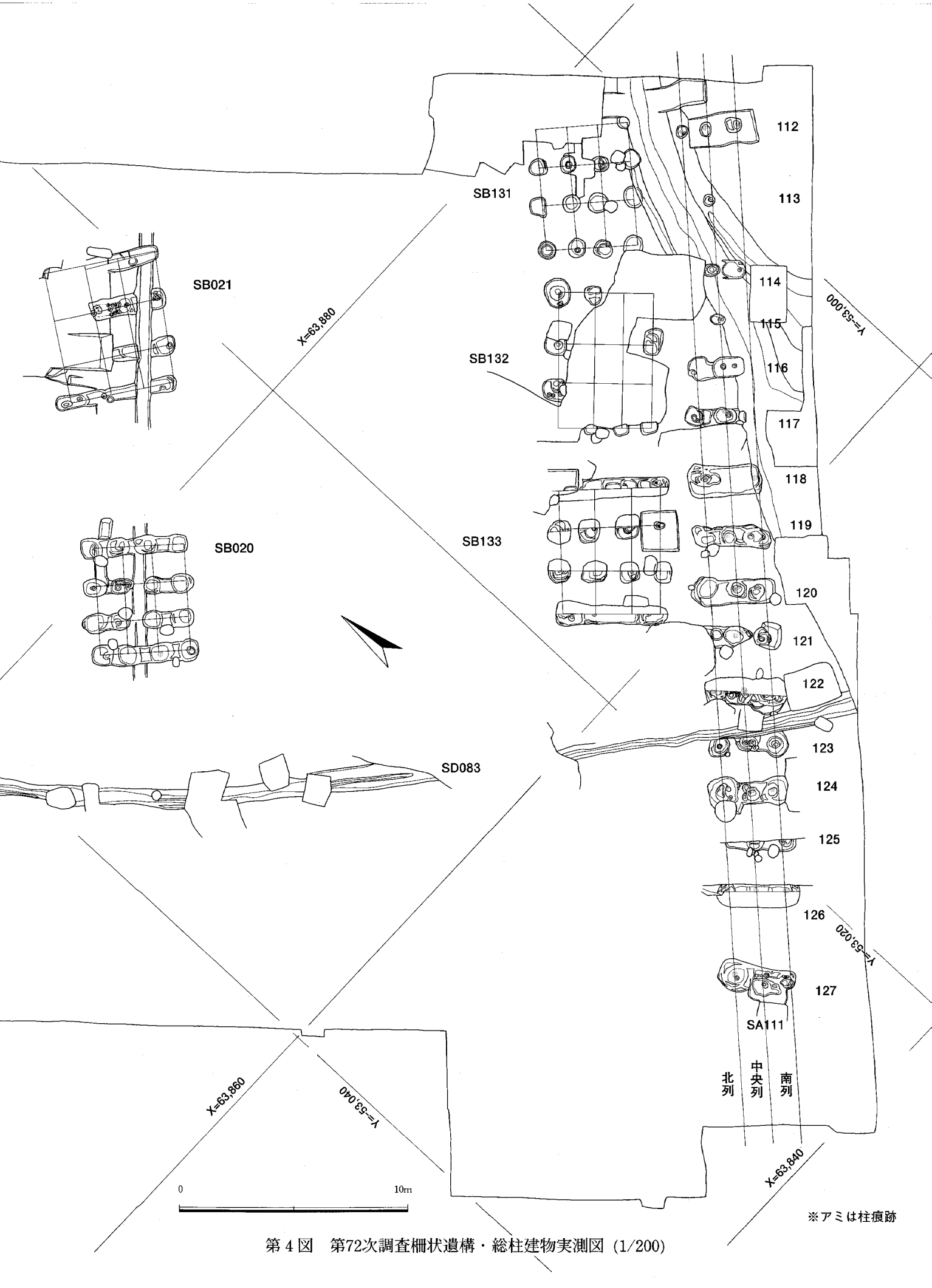
ＳＡ１１１（第４・５図）

調査区の南端で調査区にほぼ平行して３本一組となり主軸方位Ｎ―４９°―Ｅにとる柵状遺構（ＳＡ１１１）を検出した。遺構番号は延長する柵状遺構全体をＳＡ１１１とし、３本柱からなる各ユニットを東からＳＡ１１２～ＳＡ１２７と呼称することとした。また遺構の主軸方位から３列の柱通りをおおよその方向から北列、中央列、南列と呼称している。第８次調査検出の柵状遺構は主軸方位をＮ－５３°－Ｅにとりこれとは平行にはなっていない。

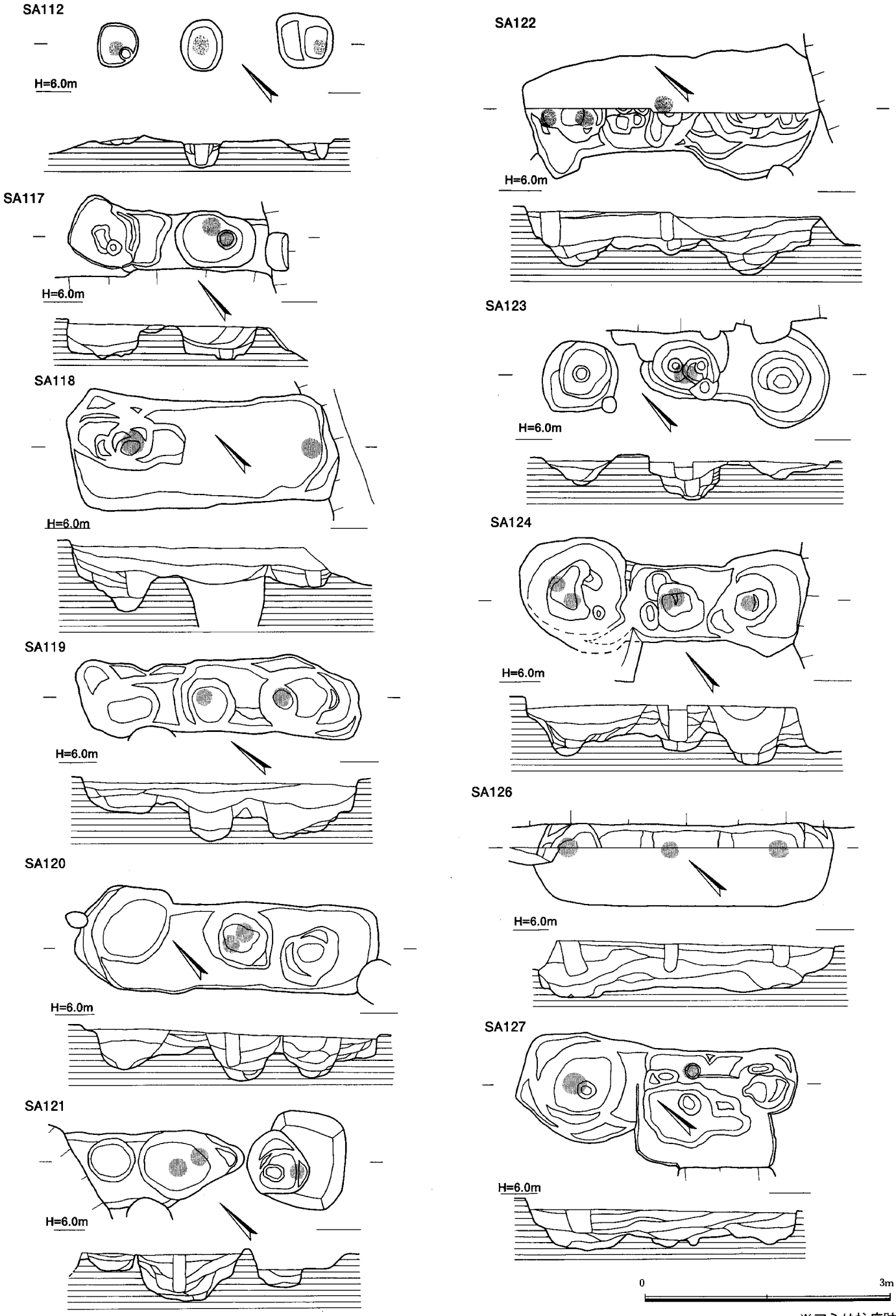
ＳＡ１１１は調査区西側端が撹乱により確認できなかったが、16組15間分確認し確認総延長は38ｍを測る。しかし第８次調査成果との対応から東西両延長方向はともに調査区外に延びるものと考えられる。各ユニットは南北方向の主軸をほぼそろえた布掘りとなっているが、東端のＳＡ１１２は西偏し西端のＳＡ１２７は東偏している。また布掘りでないもの（ＳＡ１１２・１１３・１１５）についても本来は布掘りであったものがその上部を欠失したものと考えられる。掘り方平面は基本的に隅丸長方形を基本とし一部に半円形の張り出し部分が残るものが多い。規模は幅0.7～1.4ｍ、長さ3.2～3.7ｍ、深さ40～50cmを測り、掘り方の底面はそれぞればらつきがあるが柱の据えられる部分を中心にして不整円形～円形に更に掘り下げられている。柱痕跡は残存しているもので径約20cmを測る。また柱痕跡を確認したものの中で古い柱を掘り返した後に新しい柱を建て替えているものが複数ある。建て替えを確認できた柱は中央列に多いが北列にも存在する。柵状遺構の建て替えが全面的なものか、部分的なものにとどまるかは現時点では判然としないが注目される事項である。

柵状遺構の各列の柱通りは中央列が比較的とおりが良いが、北・南は柱痕跡から復元すると直線的には並んでいない。また各ユニット中の柱間隔は１～1.5ｍとばらつきが多く、同一ユニット内でも中央からの南北両間隔が等間隔でないものも半数程度存在する。更に各ユニット間の間隔も２～3.7ｍを測り、ばらつきをみせる。中央付近はユニット間隔が2.2～2.4ｍで比較的そろうが東西両端は間隔が3.1ｍ、3.7ｍと開きが大きい。

このように第72次調査の柵状遺構は巨視的には企画性を有するようであるが、各要素を見ると比較的ランダムな構造となっている。これは相対する第８次調査検出柵状遺構と比較すると更に顕著である。



第４図　第72次調査柵状遺構・総柱建物実測図（1/200）



※アミは柱痕跡

第５図　ＳＡ１１１土層図　(1/60)

第８次調査検出の柵状遺構では東西の柱列はほぼそろい特に中央列の通りは良く、各ユニットの間隔もほぼ3.1ｍ等間隔となっている。またユニット内の柱間隔も東側２組を除いて1.2～1.25ｍと良く揃っている。この一連と考えられる区画施設内での差異については今後の検討課題としたい。

総柱建物（ＳＢ）

今回の調査でいずれも３間×３間の総柱建物を５棟確認している。この中でＳＢ０２０、０２１は区画中央東寄りで検出され、第８次調査で確認されたＳＢ１１５、１１６と同じである。この２棟は今回の遺構確認で前回の調査後埋め戻された状態で比較的良好に検出できたため、今回土層確認を行ったのち完掘した。また柵状遺構ＳＡ１１１の北辺に沿うようにＳＢ１３１～１３３が配置されているが、３棟は主軸方位がずれ柱筋は通らない。また第８次調査では建物の南北方向の柱筋のいずれかが柵状遺構の主軸延長に乗ることが指摘されているが、この点は本調査建物についても同様である。

ＳＢ０２０（第６図）

第８次調査報告のＳＢ１１５にあたる。第８次調査終了後の埋め戻し土を撤去し土層を再確認後完掘した。梁行3.8ｍ、桁行4.7ｍで身舎面積18.33㎡を測る。建物主軸をＮ―５０°―Ｅにとる。掘り方はいずれも布掘りを呈し、柱部分を円形～隅丸方形に更に掘り込んでいる。柱痕跡・抜き跡及び立柱時の版築状の痕跡が確認でき、柱痕径は約20～30cmを測る。

ＳＢ０２１（第７図）

第８次調査報告のＳＢ１１６にあたる。ＳＢ０２０同様第８次調査終了後の埋め戻し土を撤去し土層を再確認後完掘した。掘り方はすべて布掘りによるが残存状況は不良で、今回の調査では第８次調査で検出されたもののうち東端の布掘りが調査後の撹乱により欠失しているためこの部分については前回調査図面と整合して提示する。北半の多くが撹乱により失われ全体の規模はやや不明瞭であるが、梁行4.5ｍ、桁行5.7ｍで身舎面積約25.65㎡を測る。建物主軸をＮ―４１°―Ｅにとる。布掘りの検出面からの深さは20cm程度で、柱痕跡は確認できていない。また底面は比較的平坦に近く、ＳＢ０２０のような明確な掘り込み、版築状の痕跡などは認められない。

ＳＢ１３１（第８図）

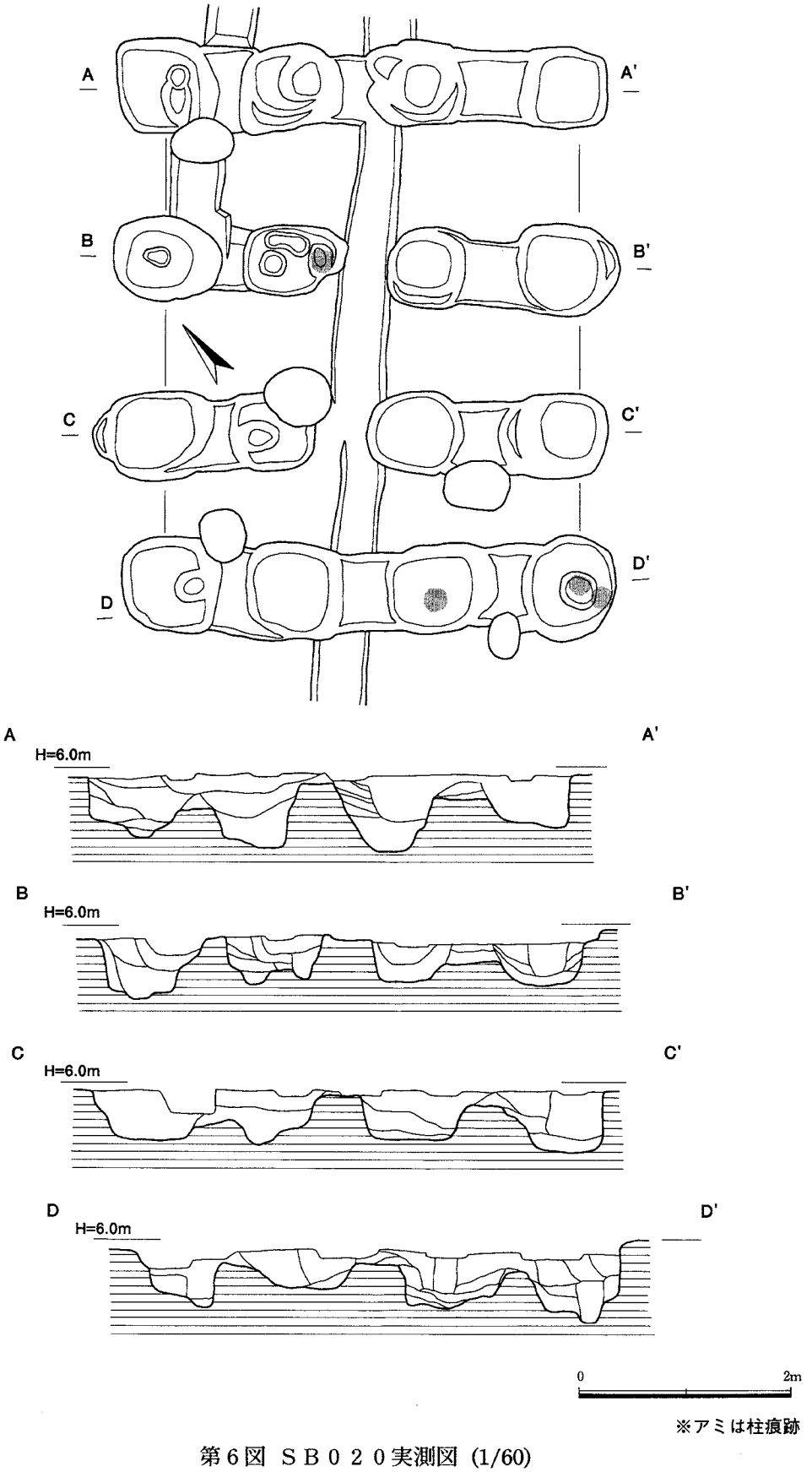
柵状遺構ＳＡ１１１の北辺に沿って配置される総柱建物である。撹乱により東端の柱列のうち３基を失う。柱の痕跡を確認できたものがほとんど確認できなかったが、梁行4.0ｍ、桁行5.5ｍで身舎面積約22㎡を測り、建物主軸をＮ―４８°―Ｅにとる。確認できたもので柱痕跡は約30cmである。掘り方は基本的に径70～90cmの略円形を呈するが、一部隅丸方形を呈するものがある。

ＳＢ１３２（第９図）

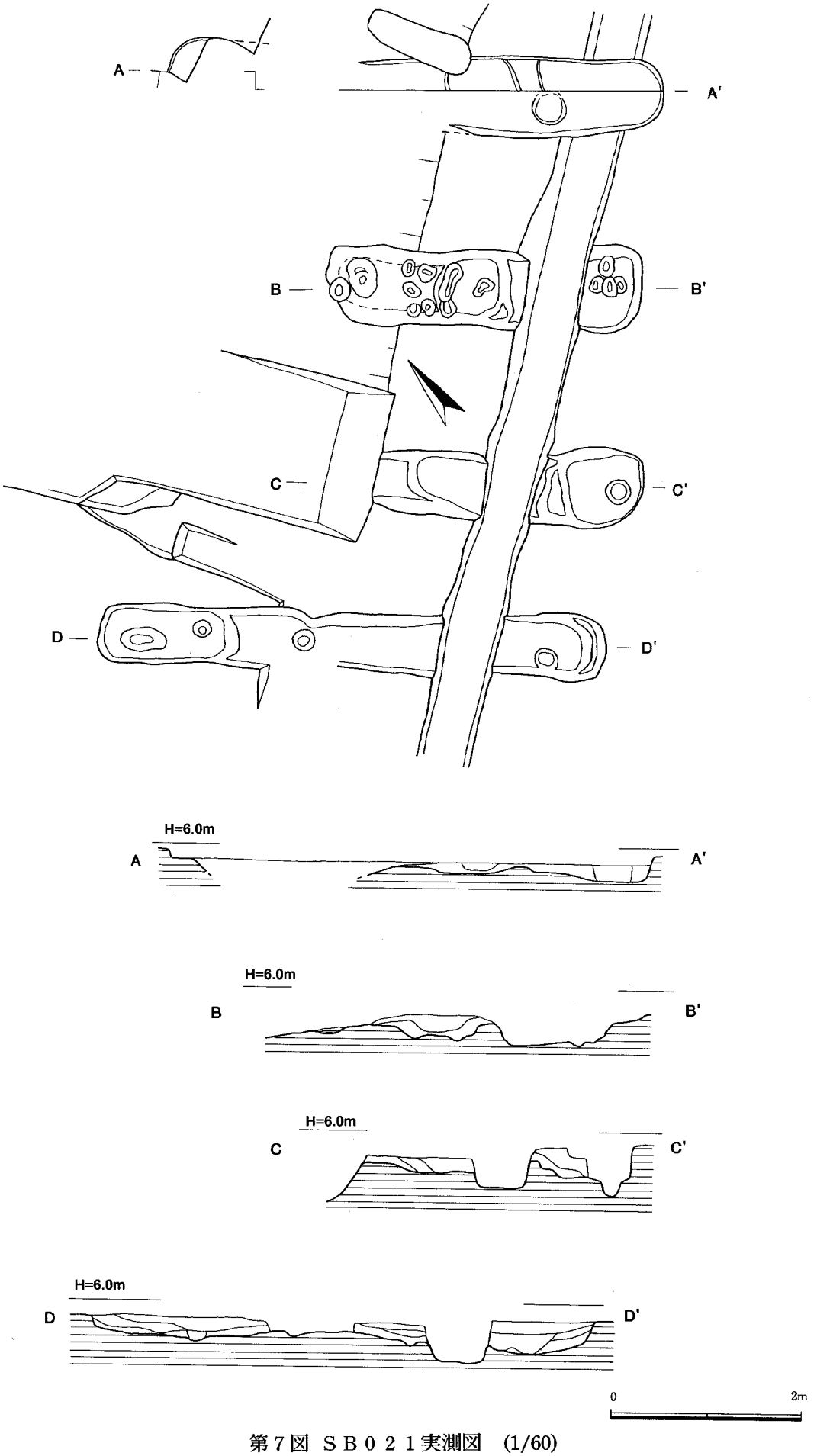
柵状遺構ＳＡ１１１の北辺に沿って配置される総柱建物である。建物中央部分の大規模な撹乱により柱掘り方の半数を失う。梁行4.1ｍ、桁行6.0ｍで身舎面積約24.6㎡に復元できる。建物主軸はＮ―５３．５°―Ｅにとる。柱掘り方は東列が不整な円形、その他は隅丸長方形を呈する。

ＳＢ１３３（第１０図）

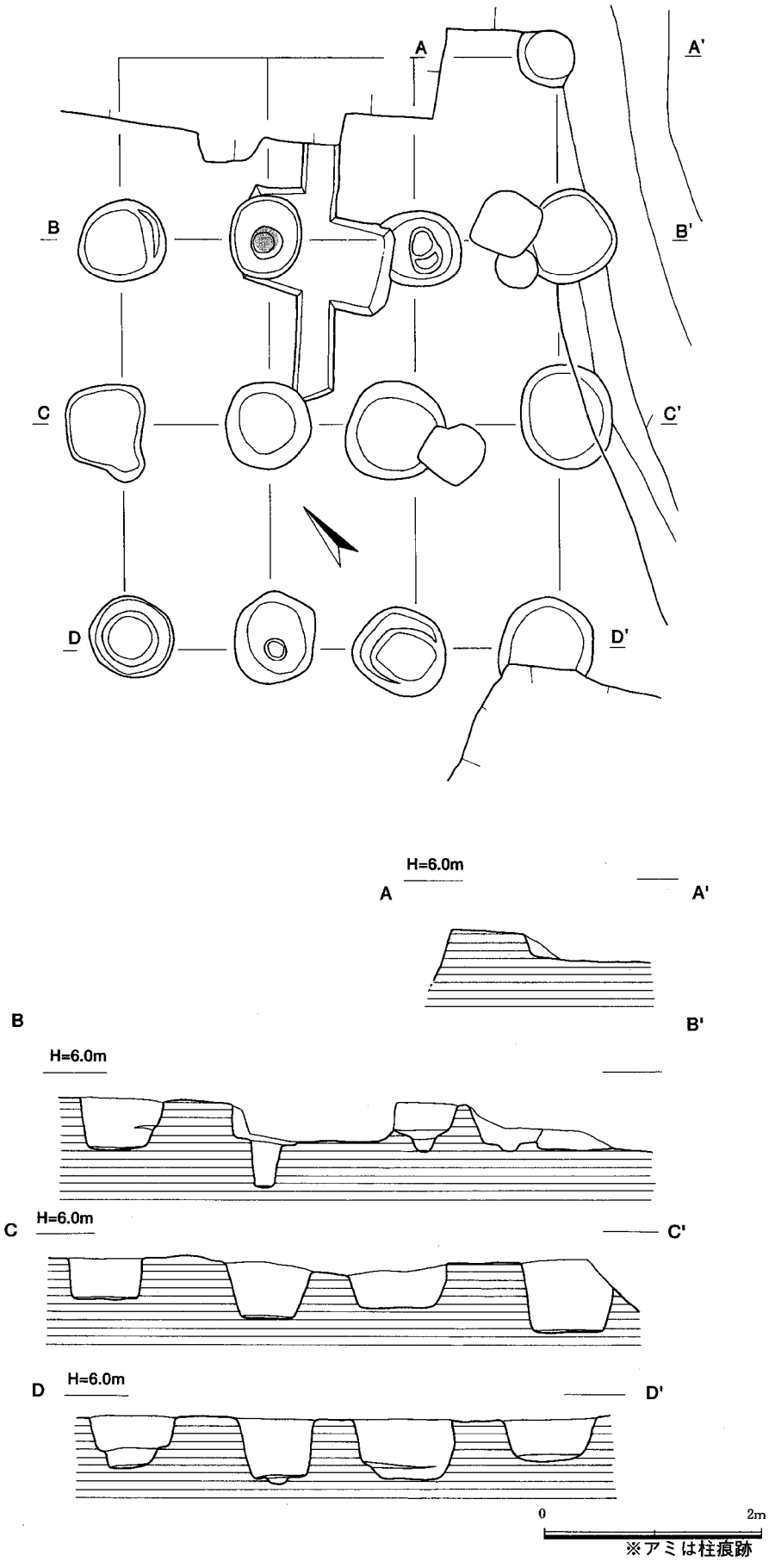
柵状遺構ＳＡ１１１の北辺に沿って配置される総柱建物である。各柱列の土層確認を行ったのち、真砂土を充填し埋め戻しを行っている。柱掘り方は東西両端の梁行きが布掘りを呈している。梁行4.3～4.5ｍ、桁行5.4～5.6ｍで身舎面積約24.64㎡を測り、建物主軸をＮ―５２°―Ｅにとる。掘り方の布掘り部分は比較的均整の取れた隅丸長方形を呈し、中央２列はそれぞれが一辺１ｍ程度の隅丸方形を呈している。本建物の土層観察から柱の抜き取り痕跡が確認できた。また確認できたもので柱痕跡は約20cmである。



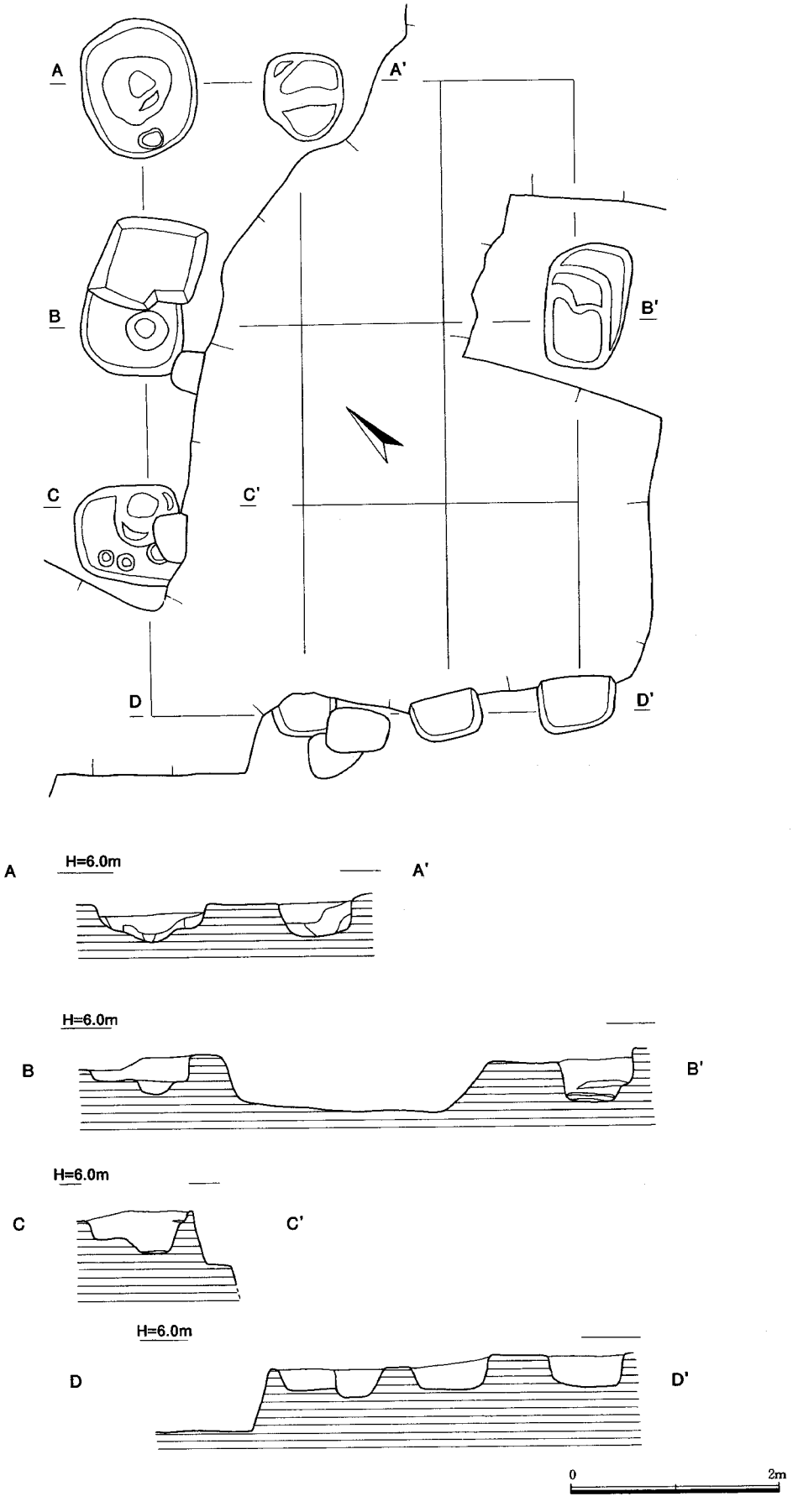
第６図　ＳＢ０２０実測図 (1/60)



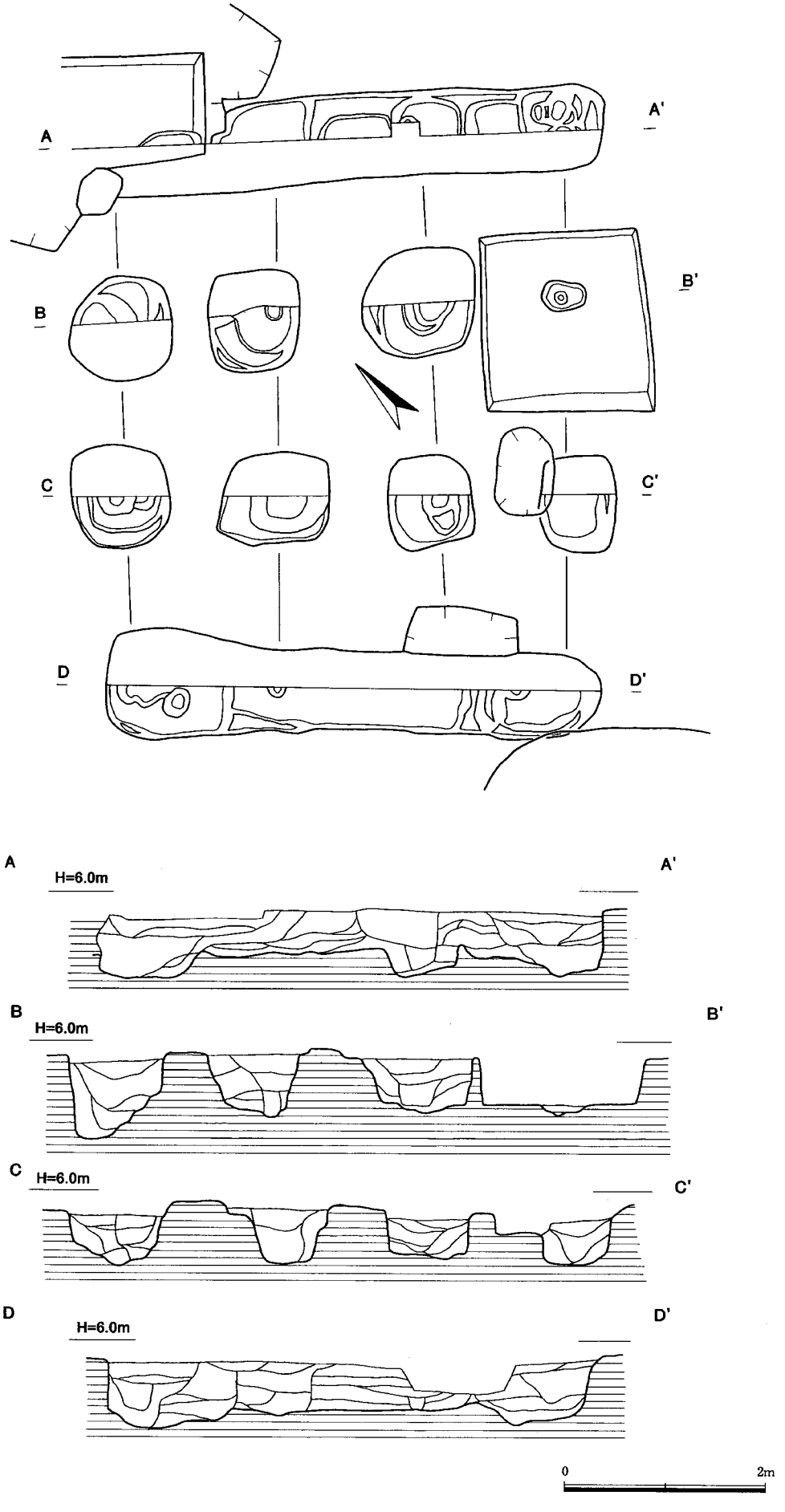
第７図　ＳＢ０２１実測図　(1/60)



第８図　ＳＢ１３１実測図　(1/60)



第９図　ＳＢ１３２実測図　(1/60)



第10図　ＳＢ１３３実測図　(1/60)

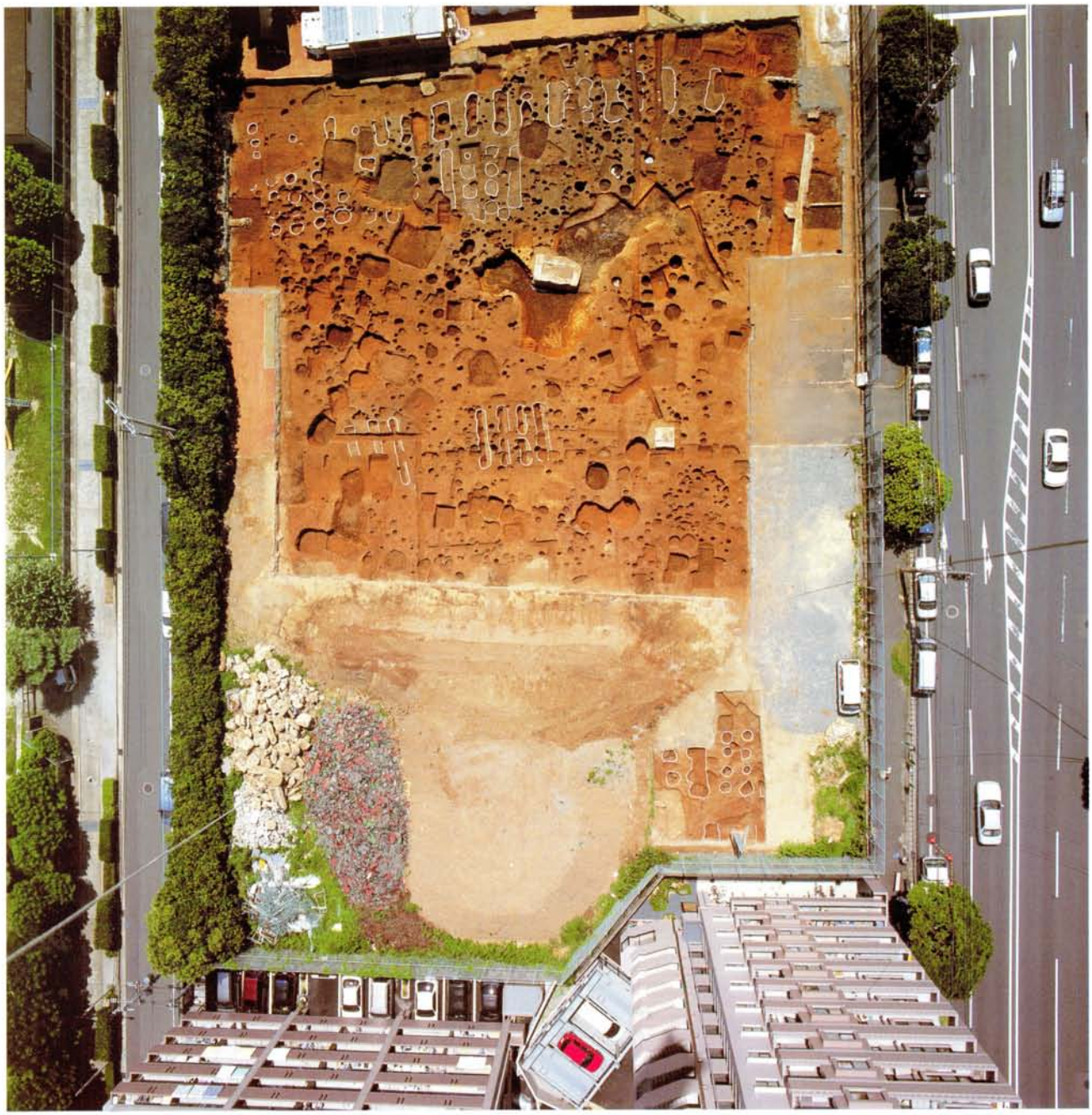


写真9　調査区全景（上空から）

写真10　第72次調査区全景（上空から）

写真11　調査区全景（北から）

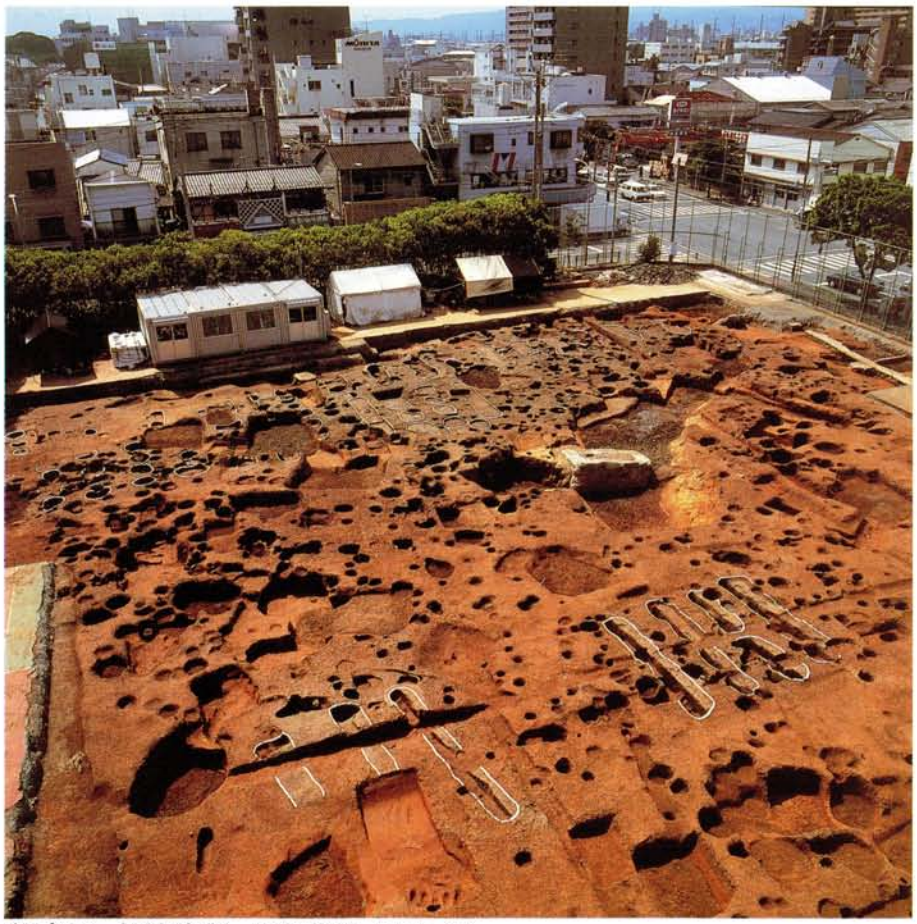


写真12　柵状遺構・総柱建物（北から）

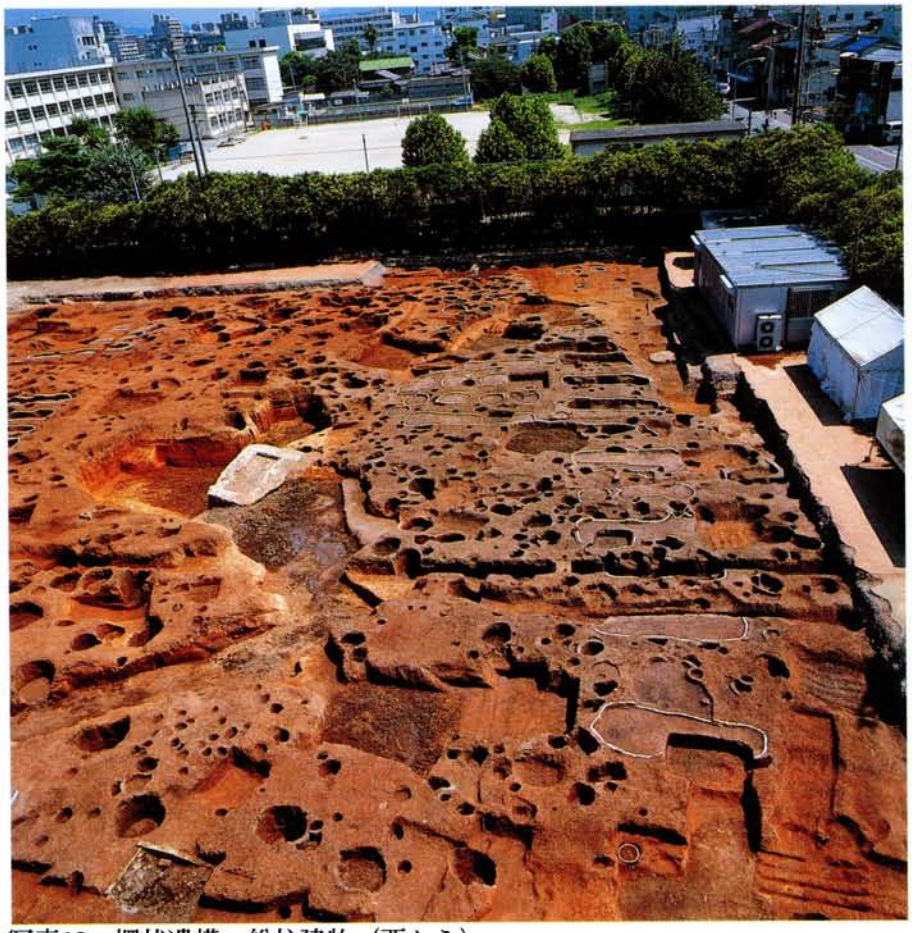


写真13　柵状遺構・総柱建物（西から）

写真14　柵状遺構（上空から）

写真15　柵状遺構（東から）

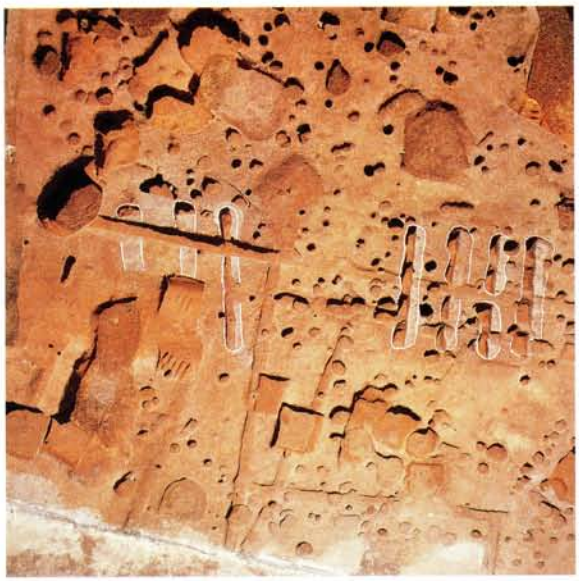


写真16　ＳＢ０２０、０２１（北から）

写真17　ＳＢ０２０完掘状況（北から）

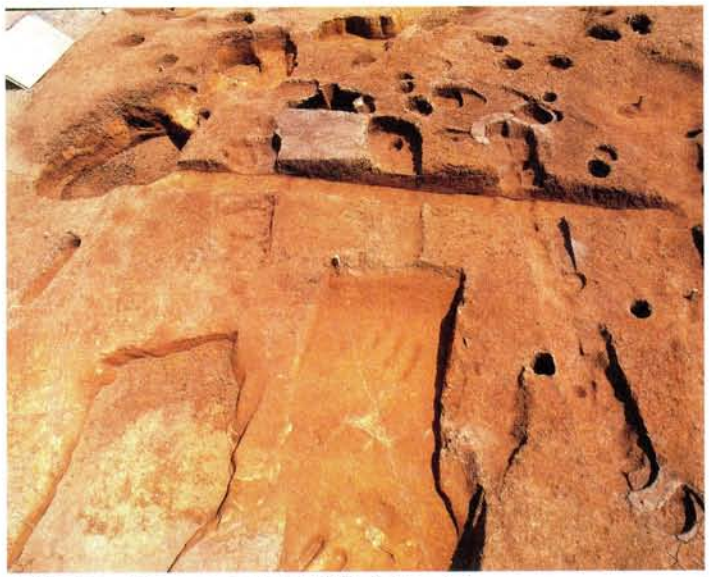


写真18　ＳＢ０２１完掘状況（北から）

写真19　ＳＢ１３１（北から）

写真20　ＳＢ１３２（北から）

写真21　ＳＢ１３３（北から）

写真22　ＳＢ１３３（北から）

写真23　ＳＡ１１９（北から）

写真24　ＳＡ１２０（北から）

写真25　ＳＡ１２２（土層）

写真26　ＳＡ１２４（南から）

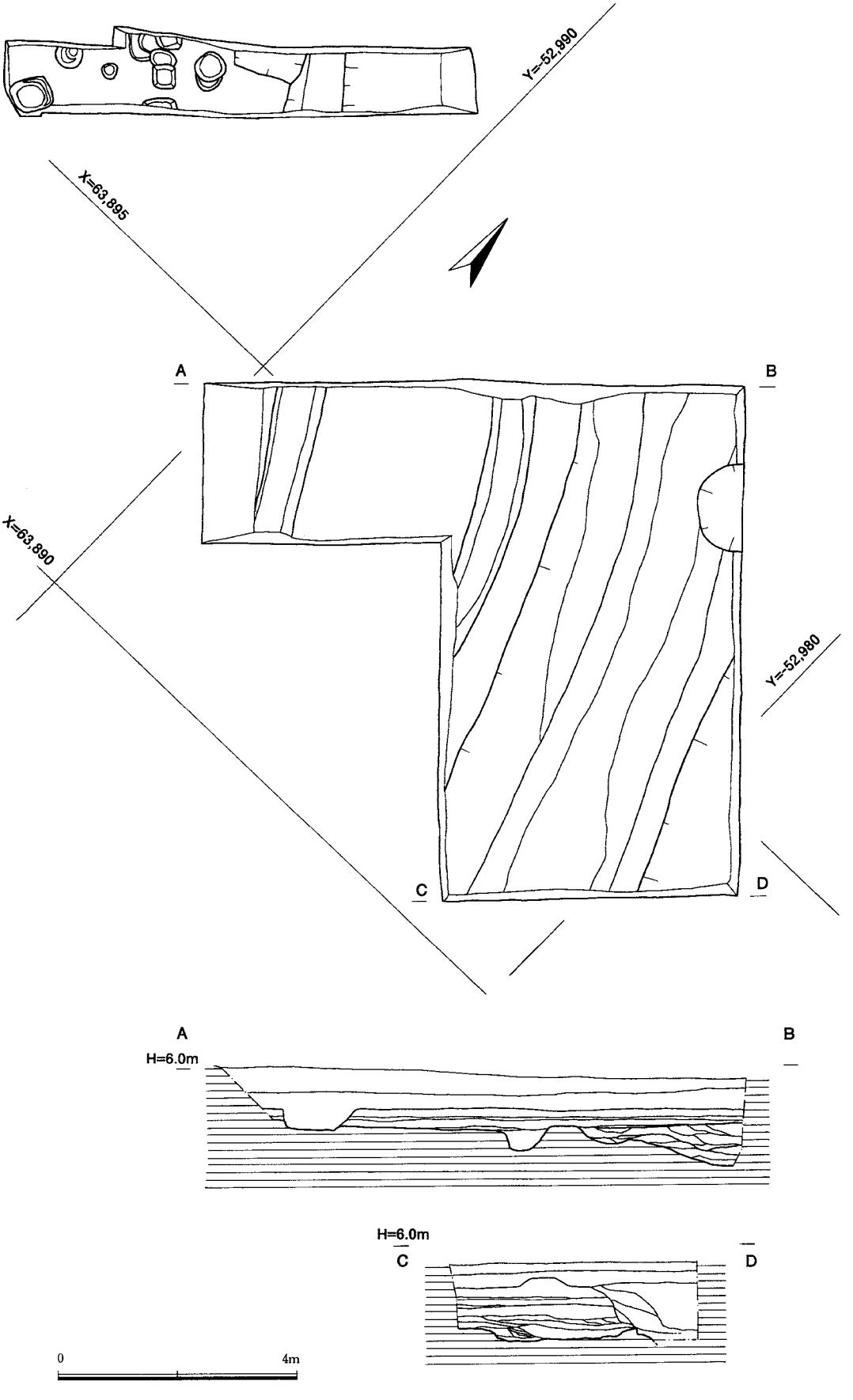
3．調査区の西側での試掘調査（第11図）

第72次調査時に東側に道路を隔てて隣接する春住小学校校庭部分の試掘調査を行ったので、この項で概要を報告する。試掘調査は第72次検出の柵状遺構・総柱建物の範囲確認および丘陵の地形確認を目的として行った。試掘トレンチは運動場の西端で柵状遺構の推定延長線上を中心にして面的に設定した。その結果北側の狭長なトレンチにおいては表土を20cmほど除去した標高5.5～5.6ｍで遺構面の鳥栖ローム層が露出し、ピットを検出している。南側のＬ字状に設定したトレンチでは西側で標高５ｍでローム層を確認するが遺構は存在していない。またほぼ中央部で略南北に延びる丘陵の落ち際を確認した。斜面には粗砂・砂質土が堆積し河川堆積によるものと考えられ、上面には２枚の水田面が確認できる。水田面からは白磁が出土し中世以降の水田と考えられる。また下位の河川堆積土からは土師器・須恵器と共に瓦器椀が出土しており、河川は中世前半までは埋没していなかったと考えられる。周辺の試掘結果によってもこの丘陵を南北に分断する河川埋没後の明確な遺構は確認されておらず、中世以降に埋没した後は近年まで水田として使用されていたと考えられる。

この試掘により丘陵は小学校西端まで延び、ここから東は旧河川になっていたことが確認された。また柵状遺構・建物はトレンチ内では確認できず、柵状遺構による東側の区画範囲はほぼ現状の道路部分にあたることが推定できる。

写真27　試掘状況１

写真28　試掘状況２



第11図　春住小学校内試掘調査位置図・実測図（1/100）

Ⅳ　比恵遺跡群第８次調査の概要

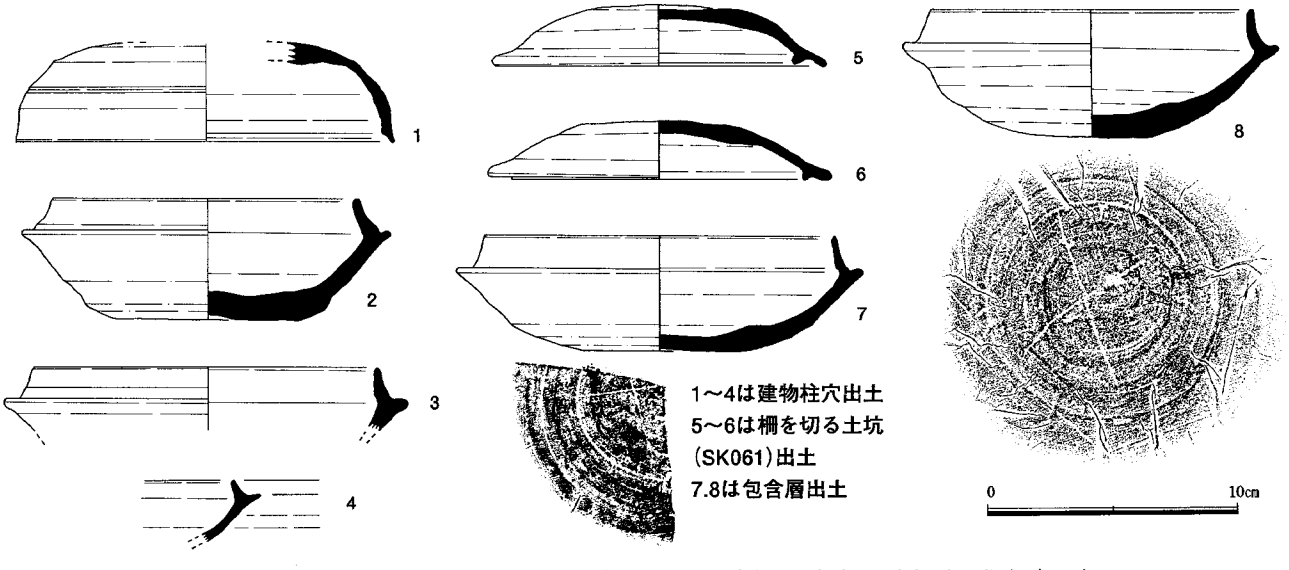
第８次調査はⅢ章で概要を報告した第72次調査の同一敷地内の調査である。表土直下の標高６ｍ前後で遺構面である鳥栖ローム層が露出する。総面積4349.86㎡中北側1/3の1410㎡を完掘し、中央部分の830㎡については露出する甕棺５基と総柱建物２基のみの部分的な調査を行なっている。全体では弥生時代～中世の遺構・遺物が確認されている（全体図は付図１を参照）。

概要をまとめると弥生時代では前期の貯蔵穴11基・竪穴住居跡１棟、中期初頭～後期の甕棺墓13基、後期の竪穴住居跡６棟・井戸26基が確認される。古墳時代では前期から後期（６世紀中ごろ）まで集落として利用されている。５世紀代では竪穴住居跡４棟、５世紀後半～６世紀中頃までは掘立柱建物で構成される集落の存在が推定され、井戸も２基検出している。６世紀中頃以降集落は忽然と姿を消し柵状遺構に囲まれた総柱建物群が出現している。

柵状遺構は調査区北辺で確認した。３本の柱を一組にしてほぼ現在の地割に並行に北東～南西に伸びる。主軸はＮ－５３°－Ｅにとり確認延長37.2ｍ・12間分検出している。両端は調査区外に伸びると考えられ全体の規模は不明確である。柵の１ユニットである３本の柱筋は布掘りとなり、各掘り方はほぼ方位をそろえる。規模は南北長３～3.5ｍ東西幅0.7～１ｍの隅丸長方形を呈し、深さは30cm前後で柱の部分を更に掘り下げるものが多い。柱痕跡は20～30cmで１ユニット中大きさや埋設深などに特別な差異は見られない。東西方向の柱通りはよく揃い、中でも中央部分は3.1ｍ等間隔で特に良好である。総柱建物はいずれも３間×３間で７棟確認している。配置は柵状の南に添って５棟、これから離れて２棟検出している。柵状遺構添いの５棟は各棟の規模は少しずつ異なり柱芯からの床面積は16.6㎡～27.8㎡である。また建物全体を通す柱筋はなく、建物間の間隔もまばらで狭いものでは２ｍの間隔しかない。しかし各棟の南北柱筋のひとつが柵状遺構の柱筋に乗り、隣接する建物間では南もしくは北辺の筋を通しているなどの企画性も有している。南側の２棟は南北方向の筋を布掘りとしている。建物規模は16.1㎡と26.0㎡である。この２棟は柵状遺構およびこれに添う建物とはやや方位を異にしている。

存続時期については井戸内の埋没痕跡から集落廃絶時に整地が行なわれたと考えられるためその造営年代を６世紀後半の早い段階とし、奈良時代前期の溝および７世紀後半の土坑に切られていることから７世紀後半には廃絶していたと考えられる。

福岡市教育委員会　1985『比恵遺跡群』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第116集



第12図　比恵遺跡群第８次調査柵状遺構・総柱建物関連出土遺物実測図（1/3）

写真29　第8次調査全景 1

写真30　第8次調査全景 2

V　比恵遺跡群第７次・13次調査の概要

両地点は比恵台地のほぼ中央部に位置し、現標高は約６ｍを測る。付近は大正から昭和期の土地改良に伴い、大規模な削平工事が行われている。地質状況や弥生時代の住居などの遺存状況から見ておよそ１ｍの削平が予測される。７次調査は1981年、13次調査は1986年に建物建設の事前調査として福岡市教育委員会が発掘を行った。一部は既に報告されている。ここでは両調査区にまたがる建物、柵列群が確認されている。建物は東西棟で二間九間であり、建物の両端から北へ延びる布掘り三本柵列が二群ある。建物は７次調査でSB02、13次調査でSB101とされ、柵列は13次調査でSA102とされた。以下では、混乱を避けるために建物全体をSB101、西側（13次）柵列をSA102、東側（７次）柵列をSA103として報告する。

建物SB101　二間九間の東西棟である。柱掘り方は円形から不整楕円形であり、検出面で径1.0～1.3ｍを測る。掘り方埋土は赤褐色粘土や黒色土の薄い互層であり、堅い。柱痕跡は黒色土として明瞭に認められた。柱痕跡から、柱は円形、直径0.3m前後である。全体として柱筋には歪みがある。桁行は26.2～26.6m、桁間は2.2～3.3ｍと最大で1m以上のばらつきがある。また梁行は西端で3.1ｍ、東端で3.4ｍと差があり、建物中央付近でやや膨らんでいる。梁行建物四隅から平均値で見た主軸はN－88°－Wである。

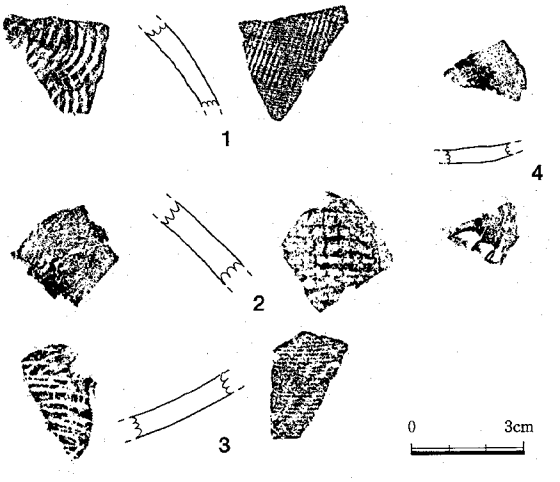
遺物は柱掘り方と柱痕跡からは多く出土したが、ほとんどは古墳時代前期以前の土器片であった。13次調査側の柱掘り方から鉄鏃１点が出土しているが、これは弥生時代の所産と見られた。本遺構に関連すると見られる遺物には須恵器片がある。何れも甕片であり、７次調査区の掘り方から数点、13次調査区の柱痕跡から１点出土した。残念ながら前者は行方不明である。後者は甕の肩部破片（図13－1）である。外面格子叩き後カキ目、内面同心円叩きである。

柵列SA102　布掘りの掘り方に三本一組の柱痕跡があり、８列７間分検出された。南端の布掘りは建物SB101の南面柱筋に揃い、これより南には展開しない。また、北側は調査区外に延びている。布掘りは幅0.5～0.8ｍ、長さ3.0ｍ前後を測る。掘り方は建物SB101に比べて浅く、埋土は明瞭な互層をなさない。柱痕跡は黒色土で明瞭に認められた。なお、掘り方内柱痕跡に対応して再掘削の跡があり、建て替えが予測された。柱痕跡は径約0.2m前後であった。布掘り内の３本の柱間は1.1～1.3ｍ、布掘り間の柱間は2.5～3.1mとばらつく。三列の平均的な柱筋はN－2～3°－Wである。

掘り方内からは少量の弥生時代土器片が出土したのみである。

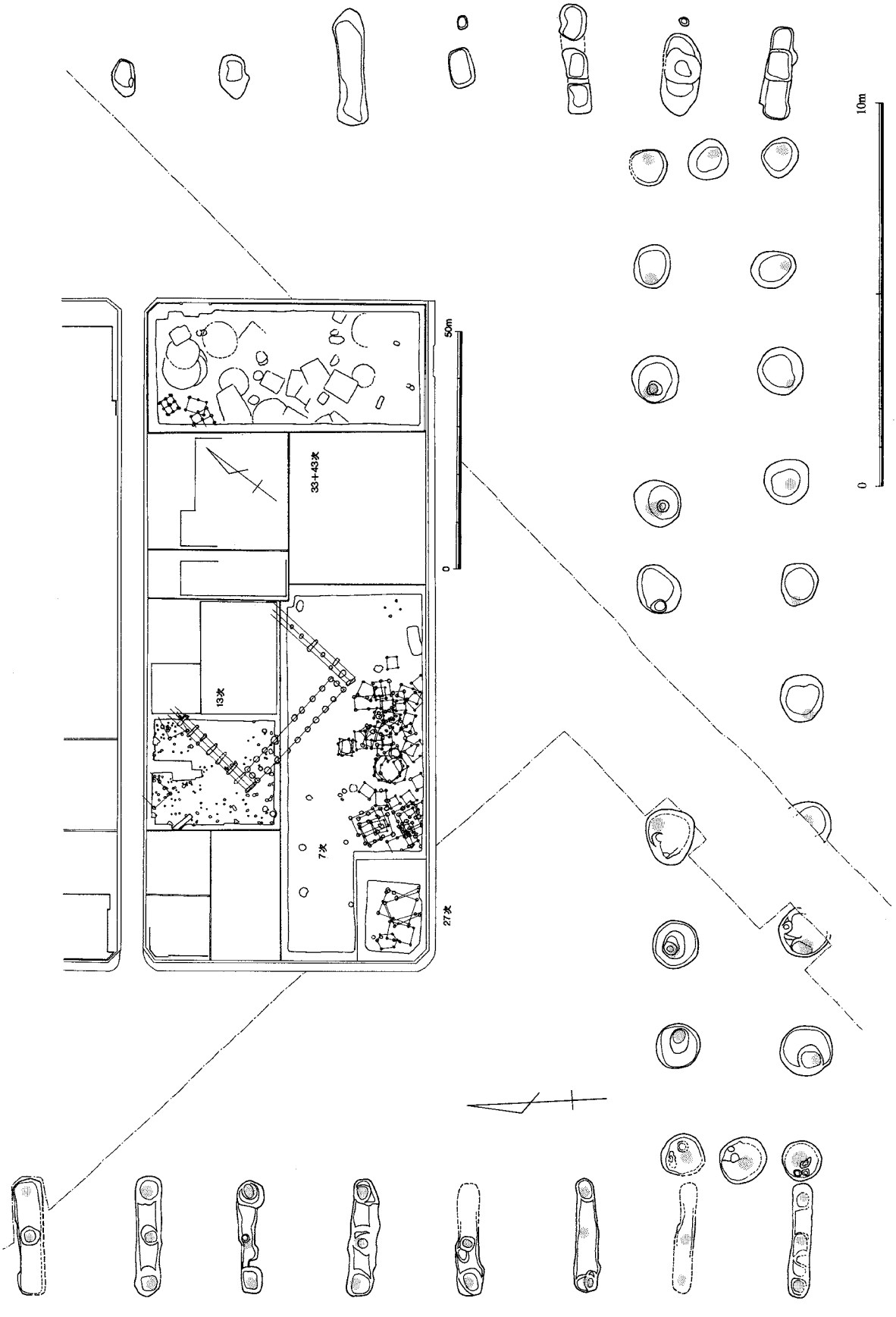
柵列SA103 調査時には柵列として一連の遺構と判断できていない。当時の図面から復元したものである。そのため、埋土や柱痕跡は不明である。布掘りと見られる遺構痕跡は７列６間分ある。位置や様相はSA102に類似する。

掘り方内から弥生時代土器片と須恵器片が出土した。須恵器片には甕片（図13－2）、壺片（3）、坏片（4）がある。2は外面擬格子叩き、内面叩き後ナデ、3は底部片で外面カキ目、内面同心円叩き、4は底部片で外面回転ヘラ削り、内面ナデ仕上げである。



第13図　比恵遺跡群第７・13次調査柵状遺構・建物関連出土遺物実測図（1/2）

福岡市教育委員会
1985『比恵遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第117集
福岡市教育委員会
1999『比恵遺跡群28』福岡市埋蔵文化財調査報告書第596集



※アミは柱痕跡

第14図　比恵遺跡群第７次・１３次全体図　(1/1,200、1/150)

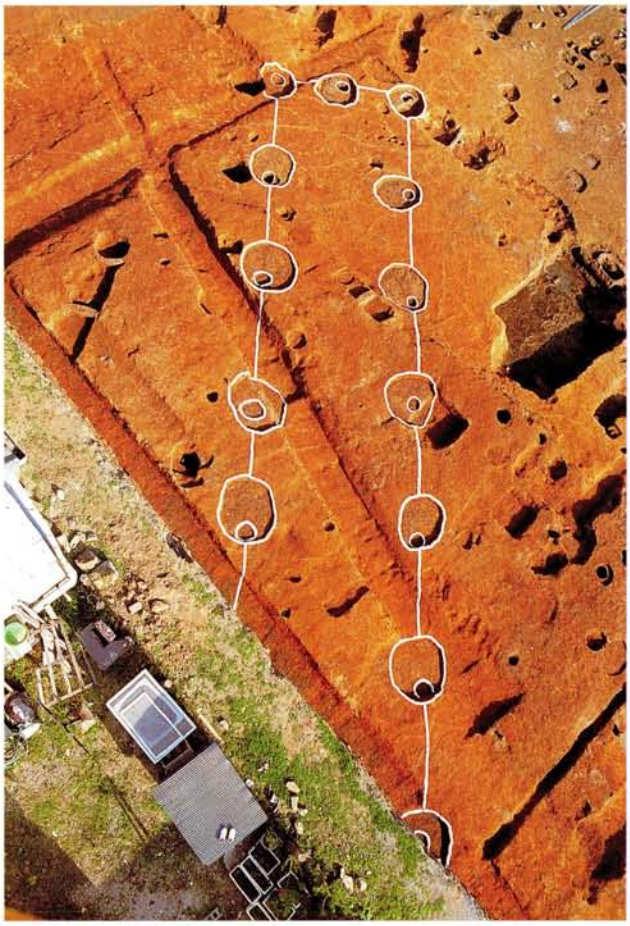


写真31　第7次調査建物

写真32　第13次調査全景 1

写真33　第13次調査全景 2

写真34　第13次調査柵状遺構

Ⅵ　比恵遺跡群第39次調査の概要

第39次調査地点は比恵遺跡群の中央部に位置し、東側50ｍに第７次、13次調査が行われている。調査前の標高は約6.0～6.3ｍを測る。周囲の道路面と比較すると30～50cm高い。遺構面は表土から約20～30cm下の鳥栖ロームで、標高は約5.8ｍである。本調査地点では弥生時代中期～後期の竪穴住居跡９軒、土坑３基、古墳時代前期の土坑１基、後期の柵１条、掘立柱建物２棟を検出した。ここでは古墳時代後期の柵、掘立柱建物について報告する。

SA－015（第15図）

015は調査区中央に位置し、Ｎ－82°－Ｅの方位で東西方向に延びる。柵の構造は１辺0.6～1.2ｍの隅丸長方形の柱穴を南北方向に配置したものを一組としている。今回の調査では４間分、延長10ｍにわたって検出した。南北方向の柱間は1.0ｍと1.2ｍ、東西方向の柱間は2.5ｍを測る。柱は掘り方のほぼ中央に据え、周囲を地山の鳥栖ロームと暗褐色粘質土で版築状に埋めていく。土層の観察からは柱は抜き取られたものが多いが、柱痕跡から推測される柱の径は20～30cmである。ほとんどが中央の柱は両側の柱より深く据えられている。

SB－016（第15図）

調査区中央西側に位置し、主軸方位はＮ－８°－Ｗを測る。掩乱のため、遺存状況は良くないが、７個、１×３間分を検出した。柱穴は１辺1.0～1.1ｍの隅丸方形プランで、深さ0.1～0.5ｍが残存する。柱間は梁行で1.6ｍ、桁行で2.1ｍ、SA-015との柱間は1.7ｍを測る。柱はSA-015と同様、柱を据えた後、版築状に埋めている。柱痕跡から椎測される柱の径は30～40cmである。柱穴は柱が据わっていた部分が若干沈み込んでいるものもある。

出土遺物（第15図1・2）

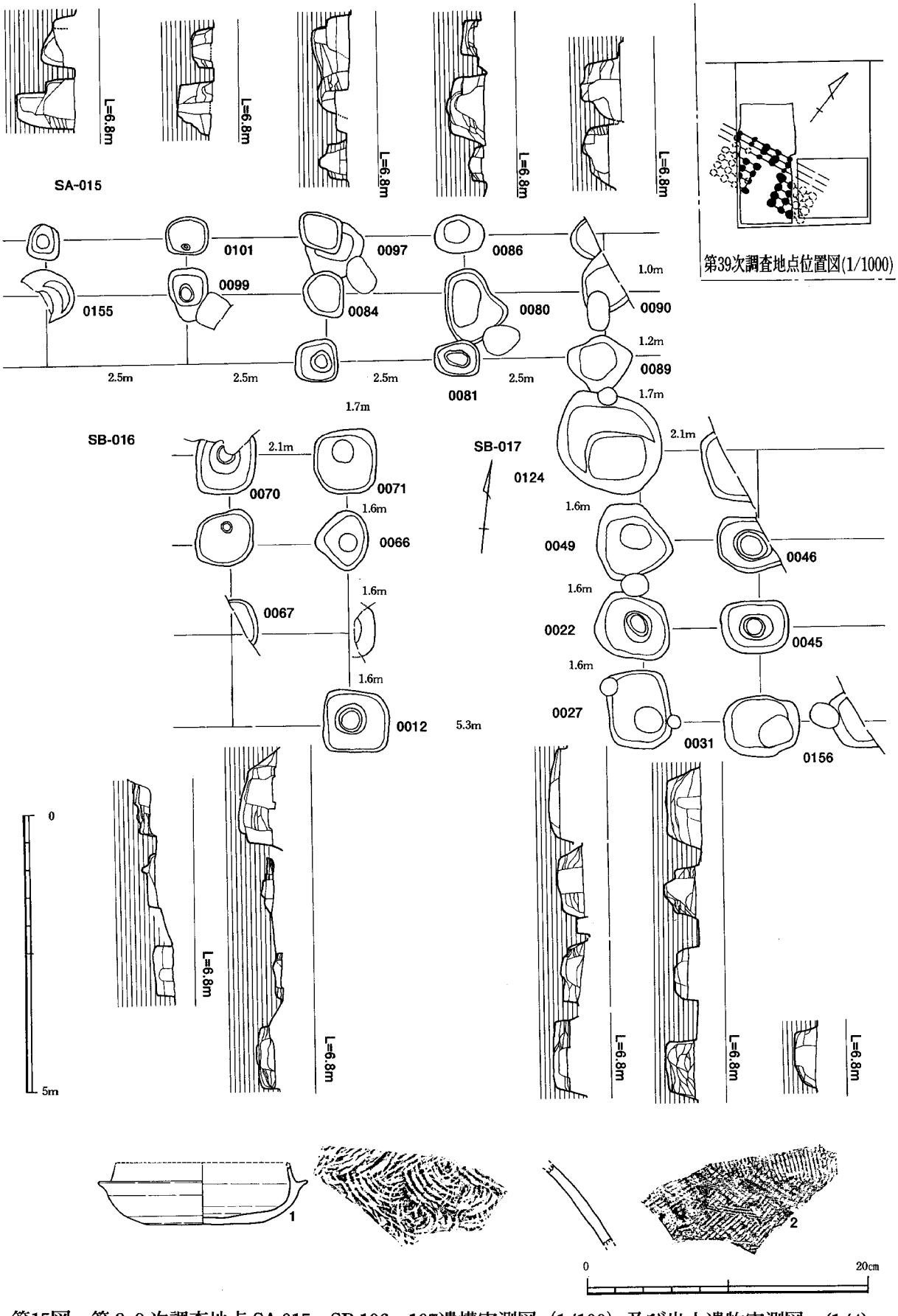
１・２ともSP－0071の掘り方から出土した。１は須恵器杯である。口縁は内傾して短く立ち上がる。口縁端部は欠損しているが、ほぼ端部に近い。口径は12cm前後と復元される。底部は回転ヘラケズリを施す。色調は灰白色を呈する。小田編年ⅢＢ期に位置づけられると考える。２は甕胴部で、外面は格子目叩き、内面は同心円文の当て具痕が残る。色調は青灰色を呈する。

SB－017（第15図）

調査区中央東側に位置する。柱筋はSB－016と一致し、主軸方位はＮ－８°－Ｗを測る。柱穴は９個、２×３間分を検出した。柱穴は１辺0.9～1.9ｍの隅丸長方形プランで、深さ0.3～0.6ｍが残存する。柱間は梁行で1.6ｍ、桁行で2.1ｍ、SA－015との柱間は1.7ｍ、SB－016との柱間は5.3mを測る。柱はSA－015、SB－016と同様、柱を据えた後、版築状に埋めている。柱は抜き取られたものが多いが、柱痕跡から推測される柱の径は30～40cmである。柱穴は柱が据わっていた部分が若干沈み込んでいるものもある。

古墳時代後期の建物SB－016、017はSA－015に北側を区画されるもので、方位、規模等から同時期に位置づけられるものである。SA－015は３個の柱穴を南北方向に配置したものを一組として、更に東西方向に延びて、南側に折れるものと予想される。柱間は柱の中心で2.5ｍ、南北幅は2.2mを測る。SB－016、017は柱筋を揃えて東西方向に配置される。建物間の距離は5.3ｍを測る。１×３間、２×３間分を検出した。調査の制約上、全体を把握することはできなかったが、おそらく３×３間の総柱建物と考える。柱間は梁行1.6ｍ、桁行2.1ｍを測る。それから復元される建物の規模は梁行4.8ｍ、桁行6.3ｍ、床面積約30㎡と推測される。柵との距離は約1.7ｍで、非常に接近している。出土遺物から６世紀後半以降に位置づけられる。建物の建て替えの形跡は認められず、長期にわたるものではなかったと考える。

福岡市教育委員会　1993『比恵遺跡群（12）』福岡市埋蔵文化財調査報告書第325集



第15図　第３９次調査地点 SA-015、SB-106、107遺構実測図（1/100）及び出土遺物実測図　(1/4)

写真35　第39次調査全景 1

写真36　第39次調査全景 2

写真37　第39次調査建物１

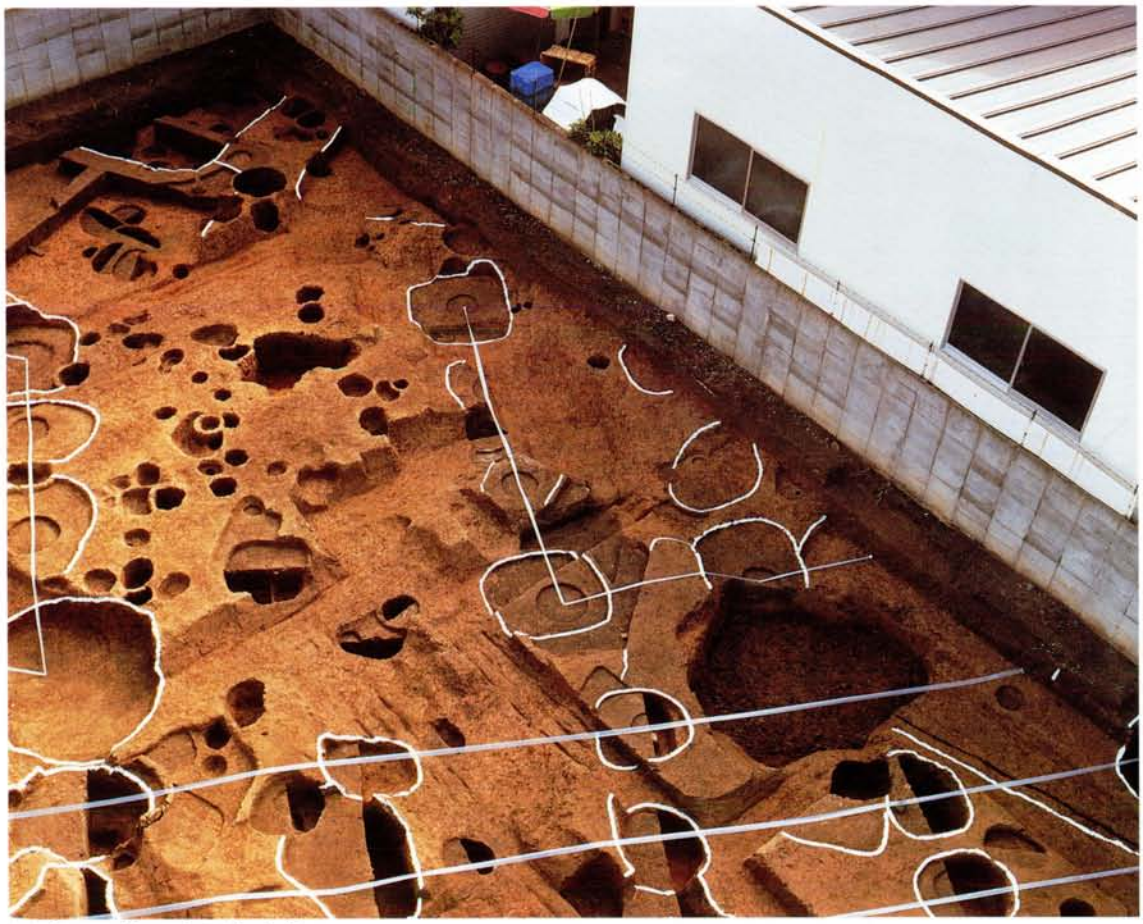


写真38　第39次調査建物２

Ⅶ　那珂遺跡群第37次・52次・56次・59次調査の概要

那珂遺跡群の南端部分の調査区である。本来の地形は不明瞭であるが南側に隣接する五十川遺跡との間に浅い丘陵鞍部が入りこむものと想定される。各調査区がいずれも離れており不明瞭な点があるが真北を向く建物とこれと直角に配される建物が復元でき、コ字もしくはロ字に配置される建物群の一部であると考えられる。

56次調査検出の１号掘立柱建物が西辺の南北棟にあたる。桁方向に７間分を検出し、柱間2.6ｍでほぼ均等である。梁間は不明であるが東西柱間には束がなく５ｍを測る。柱掘り方は80cm程度の隅丸方形～円形で、柱径は20～25cmを測る。56次・52次は検出面標高約8.6ｍである。

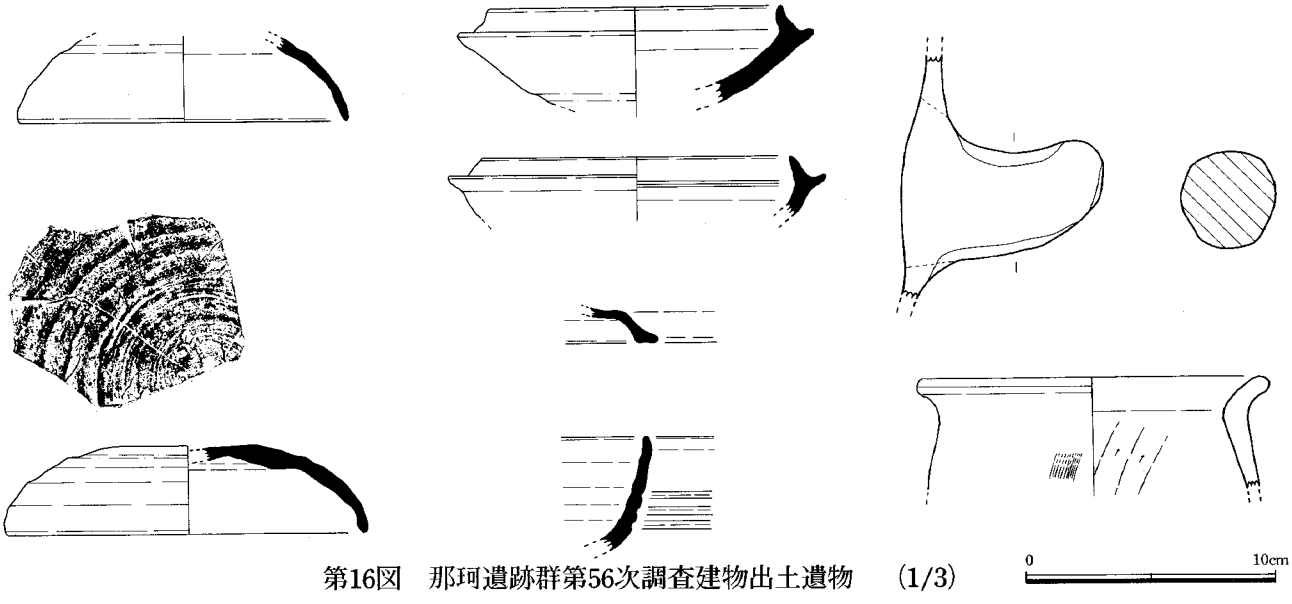
37次調査Ｃ区と52次調査で検出された建物がこれに直行する東西棟の一部と考えられる。桁方向に４間分確認し、柱間は2.3～2.5ｍを測る。梁間は不明であるが56次調査建物と同様に束柱はなく、柱間は6.5～6.6ｍを測る。柱掘り方は隅丸方形を呈し、柱痕跡は径30cmである。

59次調査ではこれに伴う建物は確認できなかったが、方位を北にとる溝（溝12）が１条検出されている。これは形状が56次調査の溝４・５・６に類似し方位もこれと同一であることから建物群に関連する溝として取り上げた。なお59次調査区の北側では深さ80cm弱の浅い谷が確認されている。奈良時代に埋没したものと考えられ建物との関係が注目される。この谷は建物の区画内に存在し造営時に埋め立てられた可能性も考えられる。遺構面標高は8.3ｍである。

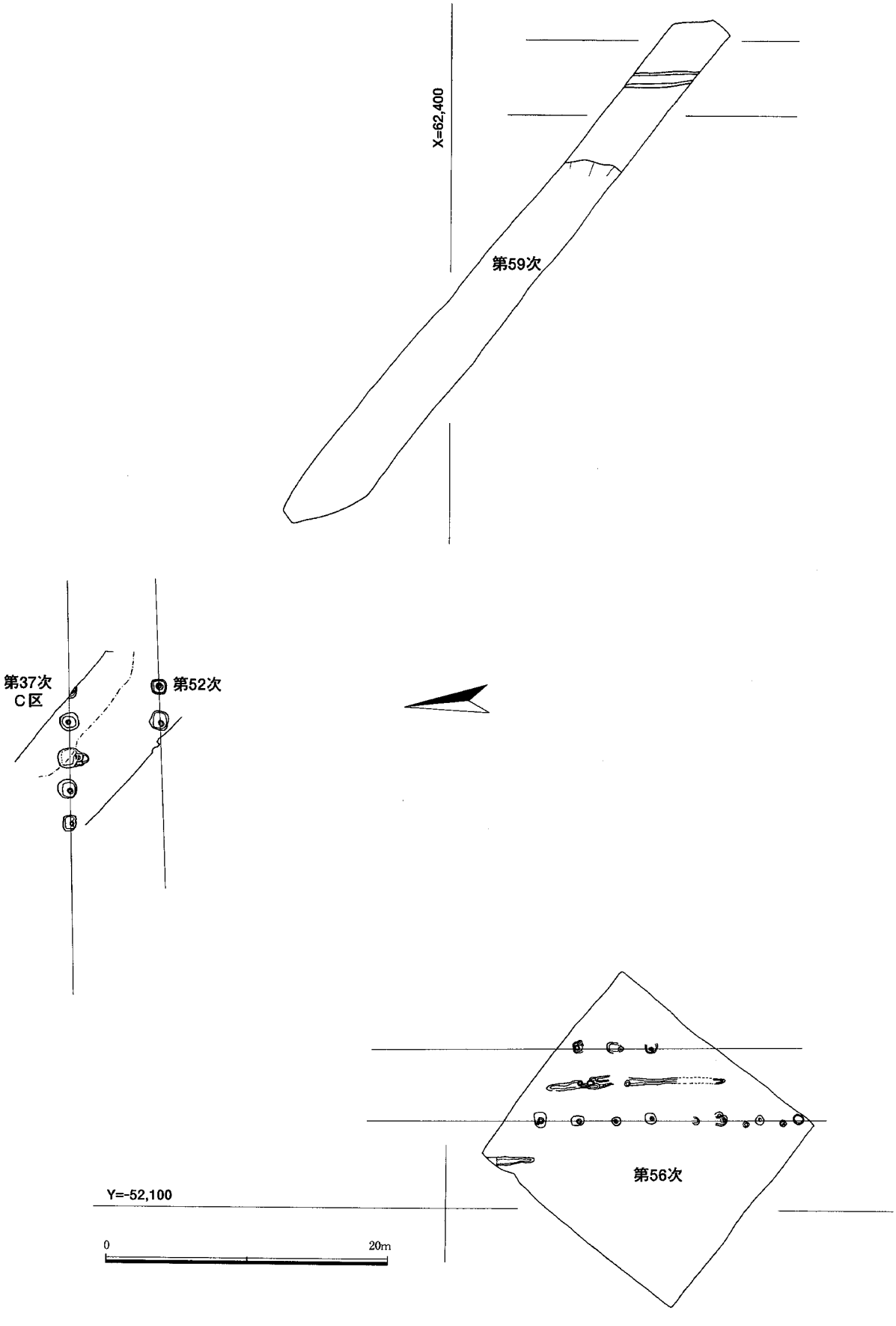
これらの調査区をつなぎ合わせると、東西65ｍ、南北50ｍ以上の範囲を囲んだ施設の存在が想定できる。出土遺物は52・56次調査において掘り方から土師器・須恵器が出土している。小破片が多いが図示された遺物から７世紀初頭の年代が与えられている。造営の上限を決める資料として注目したい。企画性・時期など比恵遺跡群検出の建物群と類似しこれよりも規模は第8次・72次調査例に近くなるが、柵状遺構に３本１組の布掘りによるものを含まない。また区画内の建物などについても不明である。

以上概要を述べたがいずれも狭小な調査であり、距離も離れているため区画内建物等についても詳細は不明である。また59次調査検出の谷が建物造営時に存在していたとすれば障害と成り得るため建物の配置として不自然であり、今後の周辺の調査に期したい。

福岡市教育委員会　1994『那珂１１』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第366集
福岡市教育委員会　1997『那珂１７』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第500集
福岡市教育委員会　1997『那珂遺跡群１９』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第525集
福岡市教育委員会　1997『那珂遺跡群２１』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第564集



第16図　那珂遺跡群第56次調査建物出土遺物　(1/3)



第17図　那珂遺跡群第３７・５２・５６・５９次遺構実測図　(1/400)

写真39　第52次調査全景

写真40　第59次調査全景

写真41　第56次全景 1

写真42　第56次全景 2

Ⅷ　有田遺跡群の概要（有田遺跡群におけるミヤケ状遺構）

1　遺跡の立地と各地点の概要

博多湾西側にある早良平野を貫通する室見川と金屑川に挟まれた洪積台地上にあり、博多湾から約1.5kmの地点にある。現地名では、早良区南庄・小田部・有田である。現地名にもあるとおり、古代には田部郷[注1]に属していたと考えられる。台地は谷が随所に入り、八手状の形態を成す。比恵遺跡と同じ３本柱柵は台地上の７カ所で検出されている。

①第64次調査周辺

３本柱柵に囲まれた中に３棟の総柱建物が検出されている。３本柱柵は西側にもう１条あり、外側の柵はその西側で台地が落ちるため、西側を囲む区画とは考え難いが、区画の東側には柵が見られず、全体を２重に囲むものでもない。建物はいずれも３×４間で、その内１棟は布掘りである。出土遺物が少なく、時期は不明瞭である。

②第102次調査

３本柱柵と３×３間の総柱建物１棟が検出されている。３本柱柵はコーナー部分ではないかと考えられる。建物の柱穴内からは６世紀後半と考えられる遺物が出土している。

③第105次調査

３本柱柵のコーナー部分と布掘りの３×３間の総柱建物１棟が検出されている。コーナー部分は柱数を変えずに同心円状に外側の柱間隔を広げている。建物は６世紀中頃の竪穴住居を切っている。建物の身舎面積は16.2㎡を測る。

④第６・66次調査

①と同じように３本柱柵に囲まれたと考えられる西側にもう１条の３本柱柵がある。報告書では別の区画を想定しているが、②の例もあり、別の区画になるか、現段階では明らかではない。建物は検出されていない。５世紀代の陶質土器が出土しているらしい。

⑤第75次周辺

３本柱柵と２×３間の側柱建物が１棟ある。柵は北辺の西端で３本の柱筋がずれており、コーナー部分と考えられ、北辺は30m前後と考えられる。建物は有田遺跡で該期唯一の側柱建物だが、那珂遺跡23次調査の建物のような束柱だと、削平のため消滅した可能性もある。

⑥第107次調査周辺

台地の最高所にあり、６世紀から８世紀の大形の建物群及びそれに伴う溝や柵が見られる。総柱建物等の切り合い及び方位から、建物群は大きくＡ～Ｄの４群とその東側にある東方建物群、南側にある郡庁に分けられる。このうち本稿に関連するのはＡ・Ｂの２群で、以下この２群を主として述べる。

Ａ群　１本柱の柵及び倉庫群。最高所の西側に広がる。現在６列確認されているが、いずれも直角ないしは平行を成しており、同一企画のもとに造られたものと考えられる。そのうち107次から181次にかけては区画内に２棟の総柱建物が検出されている。建物は３×４間で、同規模の建物である。柱穴内からは５世紀後半代～６世紀初頭の陶質土器ないしは初期須恵器が多く出土している。

Ｂ群　３本柱柵と倉庫群。２区画が確認されている。３本柵は本来すべて布掘りであると思われる。前者は南北33m、東西45mで、両側の柵に沿って２棟ずつの建物が確認されている。いずれも区画内の西側にあり、区画の東側には建物はない。建物はいずれも２×３間だが、布掘のある２棟は、布掘の方向が異なっている。身舎面積は14～17㎡で規模は大きくない。後者の三本柱柵は南北33mを測る。柵・建物からは土器の小片のみが出土し、その時期は７世紀代までを含んでいる。しかし、当地点は

遺構の錯綜が激しく、遺物の混入も十分考えられ、破片数点の遺物だけでは時期が決められない。

C群　早良郡衙の建物群。総柱建物は方位によってC１群と２群に分けられる。ほぼ同じ方位の遺構として、側柱建物からなる東方建物群、南には四面廂建物を中心とする郡庁、及び溝、柵がある。

D群　三方または四方を溝に囲まれた側柱建物群。西の溝はさらに南に伸びている。北側の溝は他の溝と矩形を成さない。また東の溝は北側が不明確である。

これらの建物群は切り合いからA群→B群→C１群→C２群→D群となる。A群は、総柱建物に５世紀後半代～６世紀初頭頃の土器、最後のD群の溝には８世紀中頃の遺物が入っている。

⑦第158次周辺

１本柱柵と３本柱柵が見つかっている。⑥と同じく１本柱→３本柱へ移行する。３本柱柵には６世紀後半の遺物のみが入っている。

有田遺跡の古墳時代は集落が連綿として形成されているが、６世紀後半には台地最高所付近で竪穴住居が見られなくなり、６世紀末頃になると遺跡全体で急速にその数を減じていく。ただし小型の掘立柱建物に変わった可能性はある。有田遺跡では、３本柱柵以前に１本柱柵が存在する。それに伴う建物は３×４間の総柱建物である。建物柱穴内から出土した土器は５世紀後半～６世紀初頭頃の土器で、それ以降の土器は確認できない。一方、３本柱柵は台地全体に７ないし８箇所存在する。方位の統一性はなく、台地の方向に規制されている。時期的には不明な点が多いが、６世紀後半～７世紀前半代頃と考えられる。概ね比恵遺跡と近い時期になる。一本柱柵と三本柱柵は、総柱建物を柵で囲む手法等から、一本柱柵→三本柱柵に連続するものと考えられる。７世紀後半代には、早良郡衙が作られる。従って、遅くとも７世紀後半前葉には三本柱柵も廃絶したと考えてよいものと思われる。

2　比恵・那珂遺跡と有田遺跡の比較

両遺跡の共通点は、三本柱柵に囲まれた総柱建物群があり、三本柱柵は方位を統一せずに台地の形状に規制されて造っている。時期的には両遺跡とも６世紀後半代に作られた可能性が高く、７世紀後半前葉以前に姿を消している。比恵遺跡では両側に三本柱柵を連結させた長細い側柱建物が見つかっている。また隣接する那珂遺跡では６世紀末以降７世紀代を通じて瓦が出土し、比恵・那珂遺跡の重要性を際立たせている。

一方、有田遺跡では、三本柱柵以前に一本柱柵に伴う倉庫群が存在する。一本柱柵は台地の最高所のみで見られ、柵が平行したり、途中から別の柵が垂直に派生したり、複雑な構造を成している。これに伴う建物は現在では２棟のみで、今後増える可能性は十分あるが、空地がかなりある。時期的には依然不明確であるが、６世紀初頭以降、６世紀後半以前に建てられている。建物の存立期間も考慮すれば、６世紀中頃以前に建てられた可能性が大きく、那津官家修造の記事（536年）に近い可能性も秘めている。しかし小片遺物のみで時期を決めるのは危険であり、今後の調査に期待したい。

両遺跡で検出されている総柱建物はいずれも25㎡前後の小型のもので、郡衙正倉に比して小さい。しかし遺跡全体での建物の面積は少なく見積もっても300㎡を超すものと思われ、筑後国御原郡衙である小郡遺跡Ⅱ期の450㎡と比較しても遜色なく、該期では、極めて規模の大きな施設と言えよう。

3　おわりに

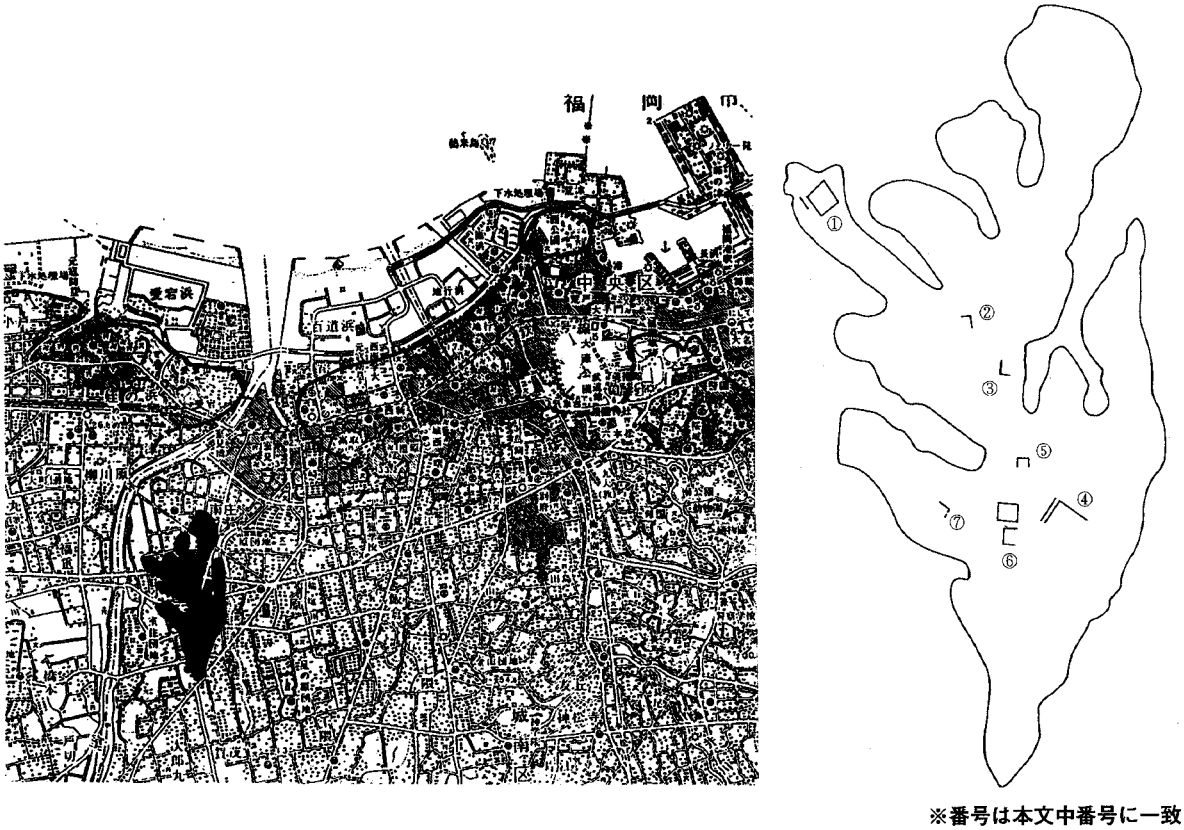
有田・比恵の３本柱柵建物群は那津官家に比定されることが多いが、日本書紀の宣化元年（536）とは依然として数十年の開きがある。ただし有田遺跡の１本柱柵は前述のように、唯一宣化元年に近い可能性がある。三本柱柵については、柵か、築地か、あるいは建物構造か、用途は判然としない。

有田遺跡では、郡衙正倉のように必ずしも柵に沿って連続的に倉を作っておらず、各柵によって倉庫の配置が異り、中には柵内に倉庫をほとんど持たないものもある。他に例を見ないコーナー部分の構造、必ずしも矩形に展開しない形態等も考慮すれば、十分な準備期間と入念な設計を経たものとは考え難く、建築学からのアプローチも今後の課題である。近年、古賀市田渕遺跡、朝倉郡夜須町惣利遺跡で三本柱柵と総柱建物が発見されている。いずれも6世紀後半代ということである。前者は玄界灘沿岸、後者は後の大宰府の南側という重要地域であり、博多湾を取り巻く地域内の各平野単位で三本柱柵建物群を建築した可能性が高くなり、郡衙の先駆的要素と考えることが可能である。

比恵・有田遺跡の建物群を含め、3本柱柵建物群を作れるのは、極めて大きな勢力の者と考えられ、時期的に考えれば「ミヤケ」と考えるのが至当だと思われる。文献上の用語からあえてあげれば、時代は若干遡るが、「那津官家」[注2]があてはまる。しかし屯倉と官家は文字状の違いで、ともに「ミヤケ」とするのが近年の説であり、比恵・有田遺跡を合わせて「那津ミヤケ」と呼んでおきたい。

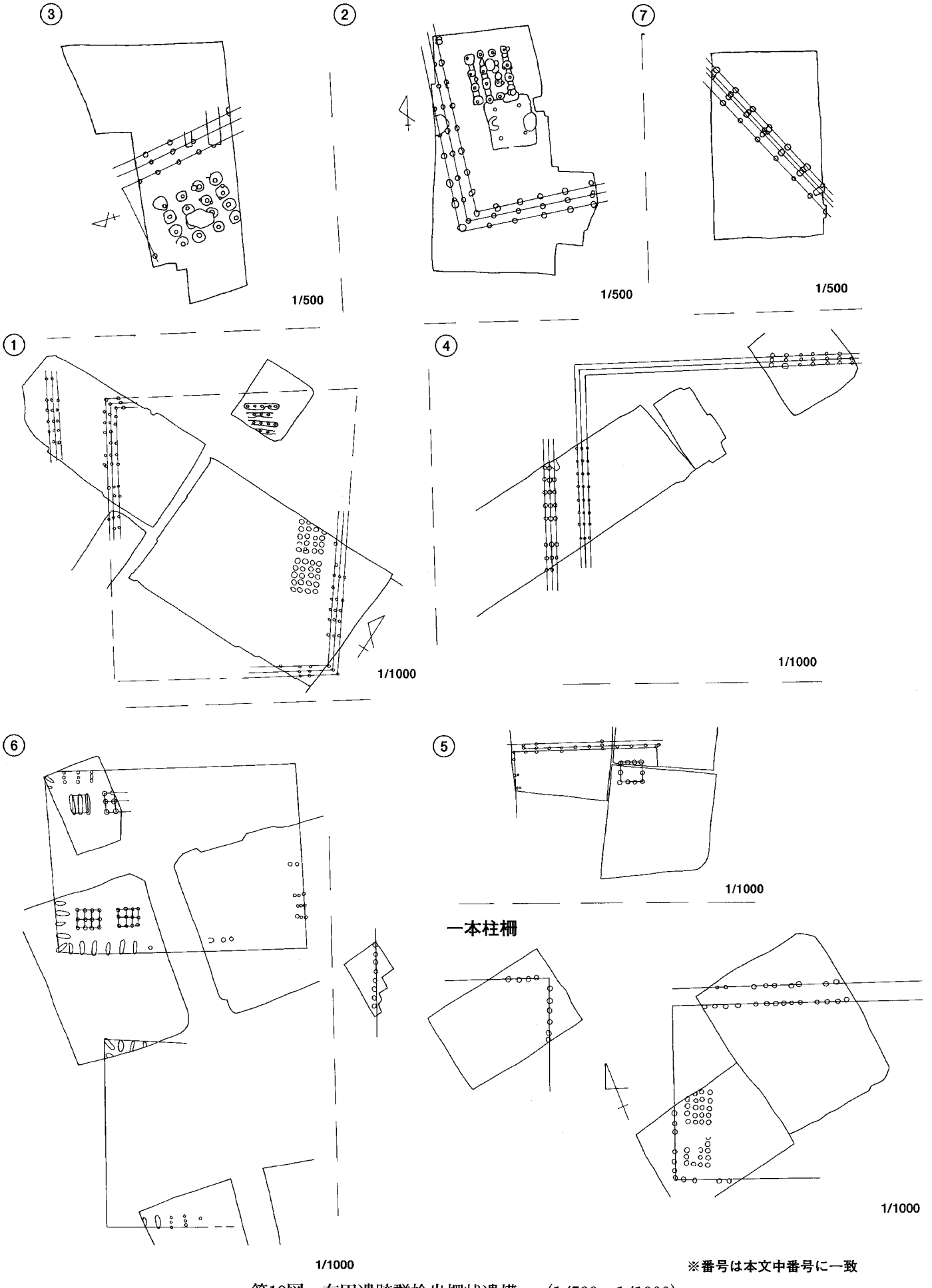
注1　「柵」という名称が適当かどうかわからないが、当該遺構を略称するため、そう呼んだ。なお、下記著作では、64次と105次の建物時期に若干の誤解があったため、本稿では訂正している。
米倉秀紀「那津官家？」『福岡市博物館研究紀要』第3号　1993　福岡市博物館
米倉秀紀「福岡市比恵・那珂遺跡、有田遺跡の倉庫群」『郡衙正倉の成立と変遷』2000　奈良国立文化財研究所

注2　鷺森浩幸「ミヤケ研究の素描」『クラと古代王権』1991　ミネルヴァ書房。
館野和己「ミヤケ制再論」『展望日本歴史　大和王権』　2000　東京堂出版　他　ただし館野氏は書紀中の「官家」に特別な意味があると述べている。



※番号は本文中番号に一致

第18図　有田遺跡群位置図及び関連遺構検出地点



※番号は本文中番号に一致

第19図　有田遺跡群検出柵状遺構　(1/500、1/1000)

写真43　有田遺跡群第105次全景

写真44　有田遺跡群第181次全景

写真45　有田遺跡群第107次全景

写真46　有田遺跡群第107次全景

Ⅸ 小　結

今回第72次調査と隣接する第８次調査結果から、区画の南辺および北辺を３本一組の柱列により囲み、区画内に３間×３間の総柱建物が10棟配置されていたことが確認できた。なお第８次調査および本調査ともにこの施設に伴う他の遺構は確認されていない。調査区内では東辺および西辺の境は確認されておらずそれぞれの境は明らかでない。このため対象地の東側小学校校庭内にトレンチを設定したところ、本調査区東端から約23ｍの地点で丘陵が急傾斜をはじめ旧河川に至っており東辺はこの間に求めることができる。西辺については隣接の調査でも関連遺構は検出されていないため現時点では不明である。区画範囲は柵状遺構の内側の柱列間距離で測ると南北55～58ｍ、東西は50ｍ以上の範囲となる。現在確認されている柵状遺構の主軸方位が若干異なるため全体としてはややいびつな（長）方形の区画となることが予想される。区画内の建物配置は北側柵状遺構に沿って５棟、区画中央東寄りに２棟、南側柵状遺構に沿って３棟が配されている。建物の配置は全体を通る柱筋がなく、建物間隔もばらつきがある。また建物身舎面積は16.6～27.8㎡で、後の郡衙正倉に比べて比較的小規模である。建物方位は中央のＳＢ０２１が西偏するが残りの９棟はＳＢ１３１を除いて北辺柵状遺構の東西方向主軸方位に近い方位でほぼ統一されている。また南辺柵状遺構（ＳＡ１１１）を構成する各ユニット（ＳＡ１１２～１２７）の南北主軸もおおむね北辺柵状遺構の南北主軸方位にそろっている事から、施設全体を規定する基本方位は北辺柵状遺構東西主軸方位のＮ－５３°－Ｅにあると考えられる。前章までに記述しているほぼ同時期の関連遺構と考えられる遺構群についてはおおむね施設方位が真北を指向していると考えられるが、それぞれ偏差があり必ずしも統一的な方位規定があったとは考えにくい。企画方位については今回の調査地点が島状の丘陵に位置することから、地形的な制約を受けたものと考えられることが多いが、第８次調査の所見で造営に際して整地・造成が行われた痕跡も指摘されており、土地面積としては真北方位で造営は十分可能であったと考えられる。しかし区画東側の丘陵の傾斜ラインが建物の方位とほぼ揃うことなどから旧地形との関連により施設方位が規制されたと考えるほうがより自然と考える。また計画から造営までの期間が短い可能性が考えられることなども規格性の不統一の要因として挙げられるが、比恵遺跡群で確認された各施設（第７次・８次・１３次・３９次・７２次）において特徴的な３本一組の柵状遺構の採用をふくめた建物構成などは類似する点も多く構造上の規格という点においては統一性が認められる。また那珂遺跡群南端部で部分的に確認されている大型の施設についてはこれまであまり触れられることがなかったものである。出土遺物からは造営がやや遅れるものの時期的に近接している施設と考えられるが、区画内に存在する浅い谷の埋め立て時期などから８世紀に下る可能性も残されている。施設主軸方位はほぼ真北を示し、区画範囲は第８次・72次とほぼ同規模になると考えられる。３本一組の柵状遺構を有するもではなく構造も異なることから、比恵遺跡群内に展開する一連の遺構群とは性格の異なる可能性も大きいが注目を要する遺構群である。

第８次調査の柵状遺構・総柱建物の所属時期については掘り方出土遺物や遺構の切りあい関係から６世紀後半に造営され、７世紀の後半までには廃絶されたと考えられている。第72次調査出土遺物についてはいまだ整理途中で図示することはできなかったが、この知見に変更を加えるような遺物は確認できていない。現段階では前回調査の結果を踏襲して時期を比定しておきたい。比恵遺跡群内で確認された同様の柵状遺構を有する遺構群についても、出土遺物は少量ながらいずれの調査においても今回の調査同様上限は６世紀後半に位置付けられており、おおよそ存続時期としてはほぼ同一の遺構群と考えられている。なお今回の調査では柵状遺構に立替の痕跡が確認できた。これがすべての掘り

方において確認できたわけではないので全面的なものか、維持・補修を目的とした部分的なものかは不明である。今回建物については明瞭な立替の痕跡は確認できなかったが、第８次調査ＳＢ０８７においてその可能性が指摘されている。

これまでも本調査を含み３本一組の柵状遺構で区画された施設については「那津官家」に関連する遺構群として考えられることが多く、近年その比定地として従来の福岡市南区三宅の地から比恵遺跡群検出の遺構群が挙げられるようになっている。「那津官家」は日本書紀宣化天皇元年の条（536年）に記載され、筑紫君磐井との戦を経た大和政権が半島情勢の緊迫化を受けて兵站基地として造営したものと考えられている。これまでの調査により３本一組によって構成される柵状遺構の特殊性、遺構群の大規模な企画性、調査地点周辺に残る「官田」・「三宅田」・「犬飼」などの地名および出土遺物から想定される時期的近接性などがこれらの遺構群を「那津官家」関連遺構と考える根拠となっている。

ミヤケの機能・構造についてはいまだ不明な点も多く文献資料等からの追求に待たなければならない点も多いが、現在までの研究成果として一定の領域を支配する経済体としての機能も有しながら、大和政権の政治的拠点としての性格の強い官衙的な施設と考えられている。この際注目されるのが日本書紀継体天皇22年の条（528年）に記載された「糟屋屯倉」である。政治的な拠点施設としての性格を有し北部九州支配の確立と半島情勢への対応を意図して設置されたものであろう。この後機能の拡大・強化を目的として「修造」されたのが「那津官家」であり、「筑紫・肥・豊」の「屯倉」の稲穀を移すための倉庫群が「聚建」されたものと考えられる。その後の書紀の記載などから「那津官家」には政治的・軍事的機能が付与され、対外的な窓口としての性格ももち合わせていたことが想定され、ここには「筑紫大宰」と呼ばれる中央からの派遣官人が常駐していた可能性が高い。このようにミヤケとは優れて政治的な施設であり、中央政権の力が色濃く反映された「官衙」であると考えられる。ここでこれまで述べてきた本調査の成果と比べあわせたい。書紀の紀年には潤色が指摘されているところであり、この記載年代をそのまま施設造営の年代とするわけにはいかない。これまでの発掘調査において出土した遺物はいずれも柱掘り方に伴うもので時期比定に足る遺物の量は多いとはいえないが、おおよそ６世紀の後半代に上限を求められ、廃絶を７世紀の後半までにまとめることができよう。造営の時期についてはいまだ判然としないが、従来考えられているような大宰府への施設移転を考える場合廃絶の時期はおおよそ一致していると言える。また各施設に通有な３本一組の柵状遺構という施設相互に一致する企画が認められるとともに、各施設内配置などにおいても大まかな企画性が想定できるなど、大きな権力下で造営されたと考えられる。方位などに差異が認められるが、施設の立地が丘陵の縁辺高位面に片寄っており物資搬入等の利便を求めた可能性が高い。丘陵上の各施設群の配置については全体のマスタープランが存在していた可能性も否定できないが、方位等の偏差をみると現状ではその可能性は低いのではないだろうか。第８次・72次調査で確認された遺構群は、ややランダムではあるが区画内に総柱建物が企画的に配置され、内部に一定の空間が確保されていることなど後の官衙正倉につながる構造を有している。またのちの令によれば正倉には近辺に防火用の池を設置する必要が述べられている。本調査区においては池状の施設は認められないものの河川流路の脇に建てられており、物資輸送だけでなく同様の機能も併せ持つものと考えられる。以上のことからこれらの施設がミヤケと考えられる官衙施設であり、今回の調査地点で確認された施設は古代官衙の正倉に比肩できる倉庫群である可能性が高いと考えられる。

比恵・那珂遺跡群群においてはこのミヤケ状の施設造営・廃絶後も引き続き官衙的な施設が建設されている。那珂郡の中心地として歴史的・地理的に重要性が認められる地域であったためであろう。今回調査で確認されたミヤケの構成施設と考えられる遺構群についてもその流れの中で捉える必要があると考えられる。

比　恵　29

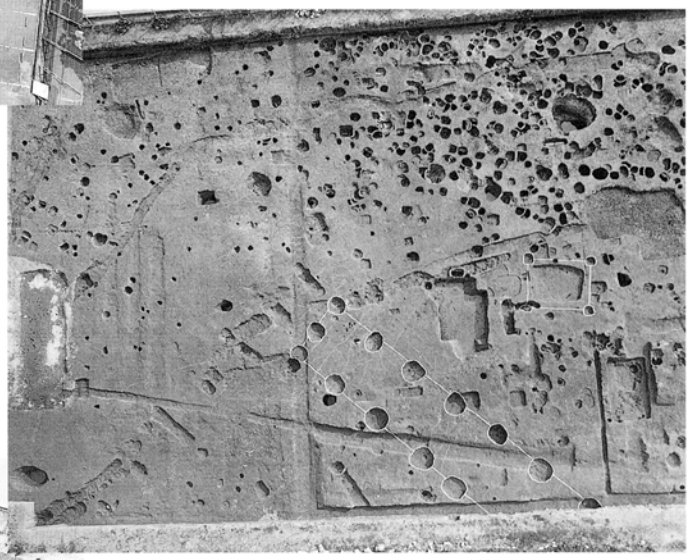
— 比恵遺跡群第72次調査概要 —

2001年(平成13年) 3月2日

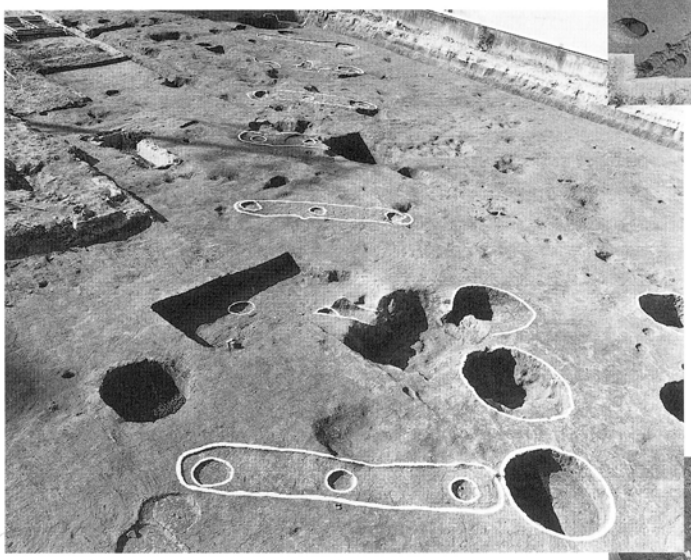
発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印　刷　株式会社マリックス
福岡市南区清水2丁目11番1号

比恵72次



比恵7次



比恵13次

有田105次

福岡市埋蔵文化財調査報告書第663集
2001
福岡市教育委員会